

弘前藩の刑法典 (十八) — 文化律 —

橋本久

目次

はじめに

一 安永律

付1 『御刑罰御定』 (安永律)

[第六号] [第十三号]

付6 『要記秘鑑』三十三 安永四年八月二十六日条

[第二十号]

二 寛政律

(一) 『御刑法書之写』

[第七号]

(二) 『寛政律』 (その一)

[第八号]

(三) 『寛政律』 (その二)

[第十一号]

(四) 『寛政律』 (その三)

付2 『隠商過料定牒』

付3 『人別方御用取扱条例』 『人別調方取扱条例』

[第十三号]

(五) 『寛政律』 (その四)

補訂1 『藩法史料集成』所収「弘前藩御刑法牒」

[第十四号]

(六) 『寛政律』 (その五)

付4 『諸取引御触書』 『公義御書付留』 『公義御触書留』

付5 (参考) 『公事訴訟取捌』

(七) 『寛政律』 (その六) [第十七号]

(八) 『寛政改正御刑法帳』 [第十九号]

(九) 『寛政改正 刑律』 [第二十号]

付6 『要記秘鑑』三十三 [第十七・十九・二十号]

料

資

- (十) 『寛政九年 刑法』 [第二十一号]
 - (十一) 『法律秘略』 [第二十二号]
 - 付7 『要記秘鑑』三十四 [第二十一・二十二号]
 - (十二) 『寛政律』 [第二十三号]
 - 付8 『御用格』二十一 [第二十五号]
 - (十三) 『和律』 [第二十七号]
 - 付9 『御用格』二十二 [第二十九号]
 - (十四) 『御刑法嘆』 [第三十一号]
 - 付10 『御用格』二十三・二十四
 - (十五) 『刑律』 [第三十一号]
 - (十六) 『旧津堅藩 刑法』 [本 号]
 - 補訂2 『隠商過料定牒』 [本 号]
- 三 文化律
- (一) 『刑法』 [本 号]
 - (二) 『御刑法嘆』 (その一)
 - (三) 『御刑法嘆』 (その二)
 - (四) 『御刑法帳』
 - (五) 『文化律』

三 文化律

(一) 『刑法』

凡 例

- 一 原本は弘前大学付属図書館所蔵本を用いた。
- 一 字体・字配りは、できるかぎり原本にしたがった。異体字・変体仮名については、かならずしも原本通りではない。
- 一 原本の行末が次行に及んだ場合は、行末を示すために「を」くわえた。
- 一 原本の丁数・表裏を各終行末に「」で示した。
- 一 便宜上、各條に一、二、三、……等の数字を付した。
- 一 他に適宜書き加えた箇所は「」で示した。

〔表紙〕



〔縦 23.3 cm 横 17.4 cm〕

御刑法定例目録

- 〔一〕 御刑法名目之事
- 〔二〕 あらなひ定之事
- 〔三〕 老人幼少者并片輪者御刑法捌之事
- 〔四〕 主殺親殺科人之忤親類江預置
ゆ之内出家願出ゆ者之事
- 〔五〕 科人者頭取同類を可別事
- 〔六〕 兇人ニ而二罪有之者之事
- 〔七〕 五軒組合江過料可申付箇条之事

〔一オ〕

- 〔八〕 科人自身申出ゆ節捌之事
- 〔九〕 悪黨者訴人之事
- 〔一〇〕 親族者罪を隠ゆ而茂御用捨之事
- 〔一一〕 親族名目之事
- 〔一二〕 罪科之者ニ寄本罪を幾等茂輕可申付
捌之事
- 〔一三〕 本罪より重き御仕置之事
- 〔一四〕 本罪より輕き御仕置之事
- 〔一五〕 女罪を犯ゆ節捌之事
- 〔一六〕 不義之財物取捌之事
- 〔一七〕 同類之内出奔有之片口ニ相成ゆ者之事
- 〔一八〕 闕所之事
- 〔一九〕 身躰切申付方之事
- 〔二〇〕 取押物之事
- 〔二一〕 誤證文押而取申聞鋪事
- 〔二二〕 舊惡御仕置之事
- 〔二三〕 村方戸メ無之事
- 〔二四〕 拾ひ物取斗ひ之事
- 〔二五〕 科人出奔之節尋之事
- 〔二六〕 拷問可申付者之事

〔一ウ〕

〔一オ〕

〔一ウ〕

〔二七〕 一人相書を以御郡内御尋ニ可相成者之事

〔二八〕 一 重き科人死骸塩詰之事

〔二九〕 一 輕き惡事有之者出牢之上答に不及事

〔三〇〕 一 名目重く相聞得ぬ共實にをいて強而人之害ニ不成者ハ罪科輕重格別之事

〔三一〕 一 吟味之内外之惡事相聞得ぬ共舊惡御定之外者相糺ニ不及事

〔三二〕 一 年月定之事

〔三三〕 一 〔一行 空白〕

〔三四〕 一 隱田畑御仕置之事

〔三五〕 一 田畑質入年賦引當小作取捌之事

〔三六〕 一 田畑質地年賦引當^{〔等〕}ニ而借用之米金錢滞濟方日限定之事

〔三七〕 一 田畑押領御仕置之事

〔三八〕 一 田畑屋鋪共坪違讓渡ぬ者御仕置

〔三才〕

〔三ウ〕

〔四才〕

〔五才〕

之事

〔三八〕 一 双方申合勝手ニ寄田畑取替所持之者御仕置之事

〔三九〕 一 銘々持抱田畑潰地ニ致ぬ者御仕置之事

〔四〇〕 一 青田を賣渡ぬ者御仕置之事

〔四一〕 一 一抱之田畑分地い^{〔七〕}し讓渡ぬ者御仕置之事

〔四二〕 一 米金錢貸借捌之事

〔四三〕 一 借金銀分散申付方之事

〔四四〕 一 家質金錢滞日限定之事

〔四五〕 一 二重質二重書入二重賣御仕置之事

〔四六〕 一 偽之證文を以米金錢貸借致ぬ者御仕置之事

〔四七〕 一 御取納滞滞之者御仕置之事

〔四八〕 一 御用物内借御仕置之事

〔四九〕 一 闕所ニ可成田畑家屋鋪隱置ぬ村役町役御仕置之事

〔五〇〕 一 人別帳江不加他之者差置ぬ者御仕置之事

〔五ウ〕

〔六ウ〕

- [五一] 一 煩_レ旅人を宿送致_ル者御仕置之事
- [五二] 一 御印紙并御切手紙御印札紛失之者御仕置之事
- [五三] 一 御関所忍通_ル者御仕置之事
- [五四] 一 立帰者御仕置之事
- [五五] 一 隠津出并隠荷揚致_ル者御仕置之事
- [五六] 一 米留所無手形米忍通_ル者御仕置之事
- [五七] 一 隠商賣致_ル者御仕置之事
- [五八] 一 廻船荷物出賣出買致_ル者并船荷物押領致_ル者御仕置之事
- [五九] 一 盜賊御仕置之事
- [六〇] 一 自分預物私曲致_ル者御仕置之事
- [六一] 一 御藏之財物を盜取_ル者御仕置之事
- [六二] 一 難船ホ之節乱妨致_ル者御仕置之事
- [六三] 一 度々盜致_ル者御仕置之事
- [六四] 一 盜人を搦捕不訴出者御仕置之事
- [六五] 一 盜賊之宿致_ル者御仕置之事
- [六六] 一 盜物質ニ取_ル者并預_ル者又者賣買致_ル者御仕置之事
- [六七] 一 入墨拔取_ル者御仕置之事

[七オ]

[七ウ]

[八オ]

- [六八] 一 金子遣捨_ル飛脚御仕置之事
- [六九] 一 火附御仕置之事
- [七〇] 一 牛馬盜人御仕置之事
- [七一] 一 無札之馬賣買并馬札紛失致_ル者御仕置之事
- [七二] 一 盜杣御仕置之事
- [七三] 一 洪水之節流失木隠揚致_ル者御仕置之事
- [七四] 一 田畑之穀物盜取_ル者御仕置之事
- [七五] 一 人を勾引_ル者御仕置之事
- [七六] 一 謀書謀判致_ル者御仕置之事
- [七七] 一 巧事かたり事重き_{〔七〕}禰たり事致_ル者御仕置之事
- [七八] 一 役人を似せ_ル者御仕置之事
- [七九] 一 帶刀致_ル百姓町人御仕置之事
- [八〇] 一 質金銀を拵_ル者并錢を鑄_ル者御仕置之事
- [八一] 一 質升質秤を拵_ル者御仕置之事
- [八二] 一 質藥種商賣致_ル者御仕置之事
- [八三] 一 賄賂を受不筋之捌扱致_ル者御仕置之事

[八ウ]

[九オ]

[九ウ]

[二〇オ]

〔八四〕 一 賄賂を受ひ計ニ而不筋之捌扱無之者
御仕置之事

〔八五〕 一 不筋之財物を取り者御仕置之事

〔八六〕 一 賄賂之約諾致ひ者御仕置之事

〔八七〕 一 賄賂を贈ひ者御仕置之事

〔八八〕 一 茂合取立私曲致ひ者御仕置之事

〔八九〕 一 拾ひ物いたし不訴出者御仕置之事

〔九〇〕 一 宿意を以人を殺ひ者并疵付ひ者
御仕置之事

〔九一〕 一 宿意を以主人或者主人之親族古主を
殺ひ者又者手負せひ者御仕置之事

〔九二〕 一 宿意を以親或者親族を殺ひ者并
手負せひ者御仕置之事

〔九三〕 一 宿意を以師匠を殺ひ者并疵付ひ者
御仕置之事

〔九四〕 一 宿意を以支配を受ひ頭分之者を殺ひ者并
疵付ひ者御仕置之事

〔九五〕 一 一家之内三人を殺ひ者御仕置之事

〔九六〕 一 呪詛調伏毒藥等を以人を殺ひ者并
苦しめひ者御仕置之事

〔九七〕 一 喧嘩打擲ニ而人を殺ひ者御仕置之事

〔九八〕 一 危き仕業を致し人を殺ひ者御仕置之事

〔九九〕 一 人たかへ致し別人を殺ひ者御仕置之事

〔一〇〇〕 一 怪我ニ而人を殺或者疵付ひ者御仕置之事

〔一〇一〕 一 罪有之妻妾を殺ひ者御仕置之事

〔一〇二〕 一 離別之妻江疵付ひ者御仕置之事

〔一〇三〕 一 弓鉄炮ニ而人越殺ひ者御仕置之事

〔一〇四〕 一 牛馬ニ而人を殺或者疵付ひ者御仕置之事

〔一〇五〕 一 人を威し逼せて死を致さしむる者
御仕置之事

〔一〇六〕 一 辻切致ひ者御仕置之事

〔一〇七〕 一 僧侶人を殺ひ節并疵付ひ節御仕置之事

〔一〇八〕 一 人殺内濟致ひ者御仕置之事

〔一〇九〕 一 喧嘩打擲御仕置之事

〔一一〇〕 一 疵療治之事

〔一一一〕 一 主人下人を打擲致ひ者并主人怪我ニ而
下人を殺ひ者御仕置之事

〔一一二〕 一 妻妾夫を打擲致ひ者御仕置之事

〔一一三〕 一 親族之打擲御仕置之事

〔一一四〕 一 師匠を打擲致ひ者御仕置之事

〔一一ウ〕

〔一一オ〕

〔一一ウ〕

〔二一五〕一 父母人ニ被打擲其子孫返シ打致ゆ者御仕置

之事

〔二三ウ〕

〔二一六〕一 支配を受ゆ頭分を打擲致ゆ者御仕置之事

〔二一七〕一 〔訴訟〕
訴詔御仕置之事

〔二一八〕一 不實之事を訴ゆ者御仕置之事

〔二一九〕一 主人を訴ゆ者并親族相訴ゆ者御仕置

之事

〔二二〇〕一 父祖之教に背ゆ者御仕置之事

〔二四オ〕

〔二二一〕一 訴詔之腰推致ゆ者御仕置之事

〔二二二〕一 強訴御仕置之事

〔二二三〕一 密通御仕置之事

〔二二四〕一 女犯之僧御仕置之事

〔二二五〕一 男女申合相果ゆ者御仕置之事

〔二二六〕一 隠賣女御仕置之事

〔二四ウ〕

〔二二七〕一 捨子之儀ニ付御仕置之事

〔二二八〕一 博奕御仕置之事

〔二二九〕一 御用事を頼合致ゆ者御仕置之事

〔二三〇〕一 失火御仕置之事

〔三三一〕一 野火御仕置之事

〔三三二〕一 御留場ニ而鳥殺生致ゆ者御仕置之事

〔二五オ〕

〔三三三〕一 於御停止場鉄炮打ゆ者御仕置之事

〔三三四〕一 御觸ニ背ゆ者御仕置之事

〔三三五〕一 科人手向致ゆ者御仕置之事

〔三三六〕一 囚人出奔致せゆ者御仕置之事

〔三三七〕一 徒刑之者再犯御仕置之事

〔三三八〕一 科人為立退并住居を隠ゆ者御仕置

之事

〔二五ウ〕

〔三三九〕一 無宿者御片付之事

〔三四〇〕一 御裁許不請者御仕置之事

〔四一〕一 不縁之妻を理不尽ニ奪取ゆ者御仕置

之事

〔四二〕一 變死之者内證ニ而葬ゆ寺院

〔二六オ〕

御仕置之事

〔四三〕一 倒死并捨物手負病人等有之越

不訴者御仕置之事

〔四四〕一 人之罪を輕重いたしゆ者御仕置之事

〔四五〕一 御刑法仕方之事

〔二六ウ〕

御刑法牒

定例

料 (一)

御刑法名目

戸ノ五等

戸ノ五日 同 十日

同十五日 同 廿日

戸ノ三十日

(一七才)

但子兄弟或者奉公人之類戸ノ難
相成者ハ右之日數之通過料人夫
或者戸ノあきなひ之簡条を以過料
錢為差出ル事

鞭刑五等

鞭三 同六

同九 同十二

同十五

(一七ウ)

鞭刑追放五等

鞭十八 所拂 同廿一 三里追放

同廿四 五里追放 同廿七 七里追放

鞭三十 十里追放大場御拂

(一八才)

但追放者鞭十八以上ハ得共其罪之

子細ニ依リ其所ニ難差置者者鞭數ニ

不拘所拂可致事

徒刑三等

徒半年鞭三十 同一年鞭三十

同一年半鞭三十

死刑五等

死罪 斬罪

獄門 磔

火刑

(二)

あかなひ
贖定之事

戸ノ五日 過料 六百文

同 十日 同 九百文

同 十五日 同 壹貫貳百文

同 廿日 同 壹貫五百文

同 三十日 同 壹貫八百文

鞭刑三 同 三貫六百文

同 六 同 四貫貳百文

同 九 同 四貫八百文

同 十二 同 五貫四百文

同 十五 同 六貫文

同 十八 同 拾貳貫文

(一九才)

(一九ウ)

(一八ウ)

同 廿一 同 拾五貫文

鞭刑廿四 過料拾八貫文

同 廿七 同 貳拾壹貫文

同 三十 同 貳拾四貫文

徒半年 同 三拾貫文

同老年 同 三拾三貫文

同老年半 同 三拾六貫文

死罪 同 四拾貳貫文

右過料之儀者老人幼少者并片輪者

之類刑に不可行者或者怪我ニ而

人を殺し欲疵付の類相當之過料ニ而

罪をあかなひ可申事

過料錢上納方貧困ニ而御定日限る

相滞の者者錢高三貫文迄者日數三十日

夫役ニつかひ可申事右以上之錢高相滞の

分者銅鉛山江差遣一日六十文之積を以

苦使為致可申事

老人幼少者并片輪者等夫役苦使ニ

難相成者者錢高三貫文迄之過料

〔二〇才〕

〔二〇才〕

〔二一才〕

〔二一才〕

相滞の分者日數三十日慎可申付事

鞭刑三鞭之あかなひ三貫六百文以上

鞭刑十五鞭之あかなひ六貫文迄之

過料上納滞の分者一日六十文之

積を以日數慎可申付事鞭數十八鞭

所拂之あかなひ拾貳貫文以上死罪之

あかなひ四拾貳貫文迄之過料上納

相滞の分者一日六十文之積を以日數

牢舎之上用捨可致事

但入牢被仰付助命無覺束類其外

子細有之分者時宜御沙汰之事

村方預御山ニ盜和等有之類村中江

過料上納被仰付の處御定日限る

相滞の得者錢高多少ニ寄村役戸ノ

之上相滞の錢高一曰三十文之積を以

村方ノ夫役人夫差出させ可申事

老人幼少者并片輪者御刑法捌

之事

一 歳七十以上十五歳以下并片輪者之類

〔二三才〕

〔二三才〕

〔二二才〕

〔二三才〕

死罪以下あかなひニ而用捨可致事

八十以上十歳以下死罪を犯ゆ者

上聞之上時宜御沙汰可被仰付事

盜賊并人に疵付ゆ者あかなひを出させ

可申事其餘之罪者御擣無之九十

以上七歳以下者死罪ニ而茂刑を不可

加事

〔二三ウ〕

但罪を犯ゆ節未老人片輪に無之共

事頭連ゆ節老人片輪にゆ得者老人

片輪を以沙汰可致事幼少之節罪を

犯し壯年ニ至り事頭連ゆ節者

〔二四オ〕

幼少之例を以沙汰可致事

片輪者之事惣而人事には津連〔つれ〕

人並に渡世難相成者越〔を〕いふ也

馬鹿乱心之類茂片輪者ニ而沙汰

可致事

歳十一歳以上十四歳迄之者死罪

犯しゆ節十五歳迄親類江預置歳

十五ニ相成御仕置可被仰付事

〔二四ウ〕

〔四〕

主殺親殺科人之忤親類江預置ゆ内

出家願出ゆ者之事

一 主殺親殺之者之忤遠追放申付ゆ者

幼少故十五歳迄親類江預置ゆ處

出家いたし度旨寺院相願ゆハ、

伺之上出家可申付事

但出家ニ成ゆ迄住所定置他所江參ゆ

節者伺差出ゆ様勿論

御目見仕ゆ程之寺院江者任職不仕せ

若任職不仕ゆ而不叶沢茂有之敬

又者 上向江罷出ゆ義有之ゆハ、是又

相伺ゆ様右之段師弟共ニ證文可

申付事

〔二五ウ〕

〔五〕

科人者頭取同類を可別事

一 式人以上申合罪を犯ゆ節者其内趣意

相企ゆを頭取与致ゆ事其餘者同類与

致し同類者頭取ゆ御仕置一等輕く

可申付事尤本文ニ同類不残与有之分者

頭取同類之差別無之事

〔二六オ〕

〔六〕

一人ニ而二罪有之者之事
九二罪以上共に頭連の節者重きもの

一 一箇条を以罪を定む事若一罪

〔二六ウ〕

先ニ頭連既ニ刑を加へる後外之罪頭連の

節者輕きもの并同等之科者不及

御沙汰若跡に頭連の科重くはハ、沙汰

直にいたし前罪之鞭數差引残る

鞭數斗刑を加へる事

但死罪以上之罪跡を相頭連の時

あかなひニ而死罪を可許分者前罪を

〔二七オ〕

差引の儀本文同様之事其外

人殺強盜火附之類あかなひ難相成

死罪者跡を相頭連の而茂差引に

不相立死刑に行ひ可申事

〔七〕

五軒組合江過料可申付箇条之事

〔二七ウ〕

一 隠田畑 一 隠津出

一 盜 杣 一 博突之者

一 隱商賣

右箇条之内罪を犯ゆる者組合之者者

〔八〕

本人之罪相當を以過料に直し組合
四軒を差出させゆる事

〔二八オ〕

但組合四軒の不足之分者四軒之

割合を以不足分者用捨致ゆる事

一 右五箇条相犯の節村役者戸メ之代り

過料六百元町役者日數五日戸メ可

申付事

但村役町役共格別不吟味之筋

〔二八ウ〕

有之はハ、村役者戸メ之積を以過料

増并町役者戸メ増可申付事

科人自身申出の節捌之事

一 惣而悪事を致ゆる者事いまた頭連不申

以前自身申出るに於てハ其罪御容赦

被 仰付ゆる事

〔二九オ〕

但人に疵付或者物によ里不可償

品并密通之類者不許事

一 盜賊或者手段等ニ而人之財物を取

其後あやまちを悔ゆる而自身と本人江

返ゆる者者上江申出ると同前其科可

許事

一 惣而僉議事有之時同類又者加判

人等之内を早速致白状依之謀計

之者共於相頭者右早速致白状の者者

本罪相當より一等軽く可申付事

〔二九ウ〕

〔九〕

悪黨者訴人之事

一 悪事有之者を召捕差出の故又者

訴出の時右訴出の者にも悪事有之由

悪黨者の申掛の共猥に相糺申問敷の

若本人の重き悪事を證據に申に

於てハ双方可致僉議事

〔三〇オ〕

〔一〇〕

親族者罪を隠れ而茂御容赦之事

一 父母兄弟伯叔父姑夫婦之間罪

有之相隠れとも御咎無之事猶又

其事を泄し逃去らしむる共不可

罪事家來主人之為に隠れ茂是又

同然之事其外妻之父母娘之娼夫之

兄弟者相隠れ節平人御仕置る三等

〔三〇ウ〕

軽く可申付事

〔三一オ〕

〔一一〕

親族名目之事

一 本文に祖父母と有之者高祖曾祖同様

之事孫と有之者曾孫玄孫同様

之事嫡孫承祖者父母と同様嫡母

養母者実母と同様之事

〔一二〕

罪科之者ニ寄本罪の幾等も軽く可

申付捌之事

〔三一ウ〕

一 譬ハ罪を犯ゆる者頭取と同類と有之

時其同類之者ハ本人の御仕置一等

軽く申付の上其者外ニ軽く可申付

子細有之時者又幾等茂軽く可申付事

〔一三〕

本罪の重き御仕置之事

一 本罪江一等或者二等三等与段々

差等を加へる御仕置者鞭刑三鞭を

一等与いたし徒刑者半年を一等与

〔三一オ〕

致し加可申事尤徒一年半鞭三十
限ニ而不可入死罪事若等を加へ死ニ
入へき者其箇条ニ其訳断有之事

〔三二ウ〕

〔一四〕

本罪の輕き御仕置之事

一 本罪の差等を減り御仕置者五等之
死刑を一等与致し三等之徒刑を
一等与致し鞭刑者三鞭を一等与
致し減可申事

死刑者 徒刑

徒刑者 鞭三十 十里追放

右之通一等与いたし減可申事

〔三三オ〕

〔一五〕

女罪を犯し節捌之事

一 女之罪を犯し者鞭十五に不可過鞭十五
以上に相當の節者十五鞭切にて其
餘者過料ニ而罪をあかなひ可申事

但貧困ニ而あかなひ難差出者ハ

老人幼少者あかなひ不納之箇条

〔三三ウ〕

を以沙汰可致事

一 女之鞭刑者襦袢之上る打可申事
尤密通者襦袢を去り打可申事
盜賊之類者入墨を許可申事

〔三四オ〕

〔一六〕

不義之財物取捌之事

一 財物之上ニ而罪を犯し者本人相手共に
罪有之時者其財物者没収可致事若
相手方罪有之本人罪無之時者其財
物者本人江可返事

但没収可致財物并本人江可返

財物既に費し用ひハ、可令償出事

若科人身死ハ而品物遺捨ハ節者

取立ニ不及事

〔三四ウ〕

〔一七〕

同類之内出奔有之片口ニ相成ひ者
之事

一 同類之内一人者出奔致し一人召捕ハ節
其者出奔致し者を本人之旨申出別ニ

〔三五オ〕

證人無之時者其者同類与いたし刑を
可加事其後出奔致ゆ者を召捕亂明

致ゆ節最初之者本人に相違無之ゆハ、
則頭取与致し残るの刑を加へ可申事

但右駭之者有之時出奔致しゆ者を

頭取与定ゆ時頭取死罪以上之罪科ニ

相當ゆ分者同類之者江刑を不加本人

召捕ゆ迄入牢為致置可申事尤死罪

以下ニ相當ゆ分者本文之通刑を加へ

可申事

〔三五ウ〕

〔一八〕

闕所之事

一 闕所之事鞭三十以上専利欲に拘ゆ

科者其利欲之輕重に依里田畑或者家

屋鋪家財等闕所可申付事重罪ニ而茂

利欲ニ不拘ものハ其箇条之處ニ出ゆ外

闕所不可致事

一 百姓田畑家財共闕所ニ相成ゆ節田畑

質地ニ取置ゆ旨申出ゆハ、證文吟味之上

〔三六ウ〕

〔三六オ〕

村役聞届之印形相違無之ニ於而ハ質入之

田畑拂代金之内を以質ニ取ゆ者江元金

可相渡金高不足ゆハ、地面ニ而可相渡若又

年質滯有之者右質入之地面拂代金を以

先年質引取質取主江者殘金之内を以

元金可相渡尤金高不足之分者銀主

可為損失事

但年質滯ニ不限上^{〔等〕}諸拜借^ハ多有之

百姓田畑闕所ニ相成ゆ節質ニ取置ゆ旨

銀主^ヲ申出ゆ而茂上^ル之諸拜借上納分ニ

引足不申分者銀主之可為損失事

御仕置ニ成ゆ者闕所之節當人貸置ゆ

金子并賣掛金子手形帳面^ハ有之ハ共

借主^ヲ不及上納事

但借主右金子之儀ニ付不埒之儀茂

有之ゆハ、取上可致上納事

一 町在共ニ家屋鋪家質ニ入ゆ者御仕置ニ

成り右家屋鋪闕所之節金子請取度旨

願出ゆハ、證文吟味之上村役町役末印

相違於無之者質地田畑同前可申付事

〔三七オ〕

〔三七ウ〕

〔三八オ〕

但上る諸拜借有之取上之家藏屋鋪
上納分ニ引足不申分者銀主可為損失事
若殘金有之節者銀主江可相渡事

〔三八ウ〕

〔一九〕

身代限申付方之事

一 田畑家藏屋鋪家財 取上

但他所ニ家藏有之分茂取上ケ尤銀主

立合吟味之上金高不足得者追而

身上成立次第可相掛旨申付金高

餘分於有之者滯金に應し為相渡

〔三九オ〕

可申立増米滯身代限申付田畑

屋鋪者銀主江渡置上年々作徳を以

滯金相済ニをいてハ地所者地主江為相返

ル之事

一 借家者ニハ、 家財取上

但地借ニ而家作自分ニ致しハ、家并

〔三九ウ〕

家財共取上可申事

〔二〇〕

取押物之事

一 惣而御制禁を犯ル物を取押ル節其懸リ合

役筋之者ニ無之ハ、其品取押ル者江

被下ル事其役筋ニ而取押ルハ、押物多少

に寄御賞被下其品者没取可致事

但御賞被下方之儀者寛政十二申年

十月被仰付之趣を以取扱可申事

〔四〇オ〕

〔二一〕

誤證文押而取申間鋪事

一 相手得心不致ニ押而誤證文取申間鋪ル

假令誤證文差出ル共其證文ニカハはらず

理非次第裁許可申付事

〔四〇ウ〕

〔二二〕

舊惡御仕置之事

一 逆罪之者 一 邪曲ニ而人を殺ル者

一 火附 一 致徒黨人家江押込ル者

一 追剝并人家江忍入盗人

一 都而御法度を背死罪以上之料ニ可被行者

但役儀ニ付私欲押領いたしル者ハ輕ク共

〔四一オ〕

相應之咎メ可有之事

料

資

一 惡事有之永尋申付置ゆ者

右者旧惡ニハ共御仕置相伺可申ハ此外

之科一旦惡事致ル共其後相止ル由

申出外之沙汰茂無之にをいてハ十二月

以上之旧惡者不及咎事

但十二月内ハ吟味取懸リ十二月以後

吟味相濟ル共旧惡ニハ不相互事

〔四一ウ〕

〔二三〕

村方戸メ無之事

一 村方戸メ者不申付輕儀者叱リ又者過料

但弘前町續并九浦町續者戸メ可申付然共

其事ニ寄過料たるへし村方ニ而茂

郷土手代之類又者大場重立之者者

戸メニ茂可申付事猶又村役之儀者其品

に寄戸メ可申付之

〔四二オ〕

〔二四〕

拾ひ物取斗之事

一 拾ひ物之儀訴出ルハ、三日晒主出ルハ、

金子者落主と拾ひル者江半分宛為取

可申ハ反物之類ニルハ、不殘主江相返シ

〔四二ウ〕

〔二五〕

科人出奔之節尋之事

主人を 家來ニ

親を 子ニ

兄を 弟ニ

伯父を 甥ニ

師匠を 弟子ニ

右之類江尋申付間鋪事

一 事を巧人を殺ル者又者闘打或者人家江忍入

人を殺シ出奔致ル者有之時其村其町ル

早速人数差出十日之内御郡中尋方可申付事

可申事

〔四三オ〕

一 落シル者之主相知連不申ルハ、六ヶ月

見合弥主無之ルハ、拾ひル者江不殘為取

可申事

拾ひル者江者落ル者ル相應之禮為仕

〔二六〕

拷問可申付者之事

一 人殺 一 火附

一 盜賊 一 謀書謀判 [四四オ]

右之分惡事致しし證據慥ニ得共不致
白狀者并同類之内白狀致し得共當人
不致白狀者之事

一 僉議之内不決外ニ惡事分明ニ相知連

其科ニ而死罪可被行者之事 [四四ウ]

右之外拷問申付可然品茂有之ハ、

評議之上可申付事

〔二七〕 人相書を以御郡内御尋ニ可成者之事

一 上江對し重き謀計

一 上之御道具ホ盜取ル者

一 人殺 但人數ニ紛敷出奔者 [四五オ]

一 御僉議中出奔者

一 牢破 一 人を勾引ル者

一 馬盜人

〔二八〕 重科人死骸塩詰之事

一 上江對し重き謀計

一 主殺 一 親殺 [四五ウ]

右之分死骸塩詰之上御仕置可申付
此外者不及塩詰事

〔二九〕 輕き惡事有之者出牢之上答ニ不
及事

一 過料戸メホ可申付輕き惡事有之者

吟味之内六十日以上入牢申付置ル者 [四六オ]

之分者出牢之節右答可申付得共日數

入牢致ルニ付令有免之旨申渡別ニ不及

答ニ同列之内不致入牢科人者相當之答メ

可申付事

但所拂役儀取上ル類者何ケ月入牢ル共

有免之沙汰有之間鋪事

一 鞭六以下御仕置ニ可相成者吟味之内 [四六ウ]

拷問申付其者御片付之節外ニ證據

有之鞭六以下者罪科ニ相違無之ハ、

追而答之不及沙汰事

〔三〇〕 名目重ク相關得ル共實にをいて強而

料

人之害ニ不成者罪科輕重格別

之事

似せ棄種致商賣の者死罪其外之似物

〔四七才〕

資

命ニかゝらざる儀者咎輕き事

升秤私ニ造りの共輕重大小本様ニ無相違者

他之損失無之故其咎輕き事

惣而制禁を犯ゆる者有之時證據を以為

可訴謀書を認或者人之作り名ニ判を

〔四七ウ〕

押の類者欲心を以人を欺くとハ格別之事

右之類名目ニ不泥其趣意を糺し可致

評議事

〔三二〕

吟味事之内外之惡事相關得の共

奮惡御仕置之外者不及相糺事

〔四八才〕

一 惣而吟味事之内外にも惡事有之趣

相關得の共奮惡不被免品々者格別

其餘之惡事者不及相糺最前ら取懸の

吟味を詰相應之御仕置可申付事

〔三三〕

年月定之事

一五二

一 凡而簡条之中ニ何十日与有之者其日之

刻限より相濟ゆ日之刻限迄を以日限相定

〔四八ウ〕

可申事尤戸メ者右之刻限を差引に

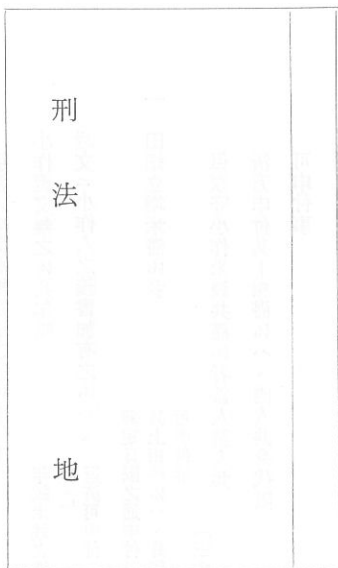
不及事

一 簡条之内に一年与有之者十二ヶ月を以

一年与相定ゆ事

〔四九才〕

〔表紙〕



〔縦 23.3 cm 横 17.3 cm〕

〔三三〕

御刑法捌

隠田畑御仕置之事

一 隠田畑所持之者

隠田畑御取上ケ一年分之
年貢代錢ニ差積御藏之
財物を盜取ハ箇条に
準シ刑を加ヘ可申事

但作徳米於所持者一年分之年貢為差出可申事

〔一六〕

一 御検見之節悪地抔

一反歩ハ五反歩迄鞭三
五反歩毎ニ一等重ク
可申付事尤高多クハ共
鞭十五ニ而許可申事

一 振替見せル者

〔三四〕

田畑質入年賦引當小作取捌之事

一 隠田畑所持之者有之節并
御検見之節悪地ハ振替
見せル者有之節村役
之者
年存見通ニ致置ル得者本人
同罪若不存ル得者五反歩
以下ハ許之五反歩以上右
之格ニ而
三等輕ク可申付事尤反賦
多くハ共鞭九ニ而許可申事
〔一ウ〕

一 質地并年賦田畑年限

一年期明きハ月より
六ヶ月過訴出ルハ、流地
六ヶ月迄著請戻可申付
事

一 中ニ定之米錢返済無之
ハハ、田畑可相渡之證文

但引當地證文茂右同断

一 年賦引當田畑一旦沙汰之上銀主方借用之

米錢日限を以濟方申付ル後不相濟ルハ、

〔一五〕
〔寛政之御例斟酌〕

一 年季を以質入年賦

引當ホニ致ル田畑年季

鞭三
年來之立増米
為相返可申事尤
地面ハ元錢を以
受返可申事

一 相濟元地主方元利返
濟請戻を求ルといヘとも
外事ニ託シ不相返

年來押領致ル者

此度之御會者右之ヶ条を相初申也

〔二才〕

地面銀主江可為相渡事

又年賦又引當田畑

元地主江返濟方可申付事

元地主加判有之證文

但又年賦又引當之節借増之分者又年賦

又引當致也者ニ返濟方可申付事

寺社知行地并御除地

寺院ハ退院社家者持官御取放押込讓受質ニ取

屋敷ハ讓渡或者質ニ入也寺社

地面為相返過料三貫文

〔二ウ〕

但知行地寺社直持之分者讓渡年賦

引當ハ者御藏地定法之通可申付事

小作證文無之也共年賦

年賦米錢立増米共

證文ニ小作人之義書加有之也ハ、返濟可申付

田畑立増米滯也者

御定日限之通申付

其上相滯也ハ、身代限可申付事

但家守小作米錢共滯也者當人請人共

濟方申付其上相滯也ハ、兩人共身代限

可申付事

年賦田畑之年貢斗

年季之内ニ也ハ、定法之通證文仕直させ年賦置主

銀主を差出諸役者

此リ年賦取主過料三貫文

地主を相勤也證文

加判人并村役迄過料老貫貳百文宛

但年季明也共六ヶ月之内ニ也ハ、地面可為

〔三ウ〕

請戻年季明き六ヶ月過也出入ニ也ハ、

銀主江地面為相渡本文之通叱り

可申付事尤年貢諸役共ニ銀主ニ而

相勤也様證文為仕直可申事

永代渡之田畑ニ茂前条之通之證文有之

〔四ウ〕

分者右同断仕直可申付事

年賦引當ニ取置也

地面を半分直作致し

年賦地之高不殘年貢 前条同断

諸役共ニ元地主を相勤也

證文

但書前条同断

〔四ウ〕

質地田畑年季中

元來錢借高之内

返済いたし年季明

殘米錢有之旨於及

出入者

年賦田畑元地主ニ而小作致し立増米

滯り儀銀主る申出ゆハ、立増米滯斗

返済方申付日限之通不相濟ゆハ、地面を

取上銀主江相渡外小作人申付り儀者銀主

勝手次第尤年賦年限中者流地ホ之

不及沙汰年賦返済之所ニ而元地主江

地面可相返事

年季を以質入年賦

引當ホニ致ゆ田畑年季

相濟元地主る元利

返済請戻を求ゆといへ共

外事ニ詫し不相返

年來押領いたし者

田畑質地并年賦引當之出入并小作

内返済之米錢年割ニ

致し壹ヶ年返済致ゆ者ハ

壹ヶ年延右之格ニ而年延ニ

為致年延年限申受戻

ゆ之様申付其上返済滯

ゆハ、内返済之米錢地主江

相返せ地面者銀主

可為相渡ゆ事

鞭三

年來之立増米為

相返可申事尤地面者

元錢を以受返可

申事

滯之儀及出訴といへとも田畑一抱之外

分地之出入者取上ケ申間鋪事

〔下ケ札〕

〔此ケ条分地御制禁御觸出之後

本文之通被仰付ノ様ニ〕

田畑家屋鋪質地ニ致置ゆ者上ケ諸拜借

有之上納相滯田畑家屋鋪上江御取上ケ

被 仰付銀主江分散物無之借方不埒之者

盜賊ニ準し三等を減刑を加へ可申事

田畑質地年賦引當ホニ而借用之

米金錢滯濟方日限定

錢五百目以下

米貳拾五俵以下

錢五百目以上

米貳拾五俵以上

錢壹貫目以上

米五拾俵以上

錢五貫目以上

米貳百五拾俵以上

〔六ウ〕

〔三五〕

〔七ウ〕

〔六オ〕

〔七オ〕

〔六ウ〕

〔六オ〕

〔六ウ〕

〔七ウ〕

〔七オ〕

〔七ウ〕

〔七オ〕

〔七ウ〕

〔七オ〕

〔七ウ〕

〔七オ〕

錢拾貫目以上 閏月共
米五百俵以上 十三ヶ月限

右日限ニ準返済申付ハ上滞ハ、地面
取上銀主江可為相渡尤其人之身上ニ
應シ取捌可申事

〔三六〕

田畑押領御仕置之事

〔八才〕

屋鋪者老軒田畑者
老反歩ハ五反歩迄
鞭三屋敷者老軒
田畑者五反歩毎ノ
他人之田畑を事ニ寄
押領いたしぬ者
一等を加ヘ可申事尤
反畝多といへとも鞭
十八ニ而用捨可致事

但年來之小作米可令返事

〔八ウ〕

〔三七〕

田畑屋鋪共坪違讓渡ル者御仕置之事

證文之通地面相札請取
人立相渡ル上渡人所持之
田畑取上鞭十八所拂
村役者役儀取放過料
田畑屋鋪共坪違讓渡ル者
老貫八百文加判之者過料
老貫五百文

但當人老人之手段ニ而村役加判人不存ハト
いへとも不吟味之故を以過料六百文宛

〔九才〕

〔三八〕

双方申合勝手ニ寄田畑取替所持之者
御仕置之事

一五六

双方申合勝手ニ寄
御本帳之通請取渡之
證文ニ仕直させ双方共叱リ
田畑取替所持致居ル者
〔九ウ〕

〔三九〕

銘々持抱田畑潰地ニ致ル者御仕置之事

銘々持抱田畑之内申立
本人鞭三村役過料
九百文本之如ク仕直シ
無之勝手ニ寄壞井
可申付事尤無止事
子細有之分ハ其節
街道ニ致置ル者
願出ニ寄時宜御沙汰
之事

但其身老人之堰街道ニ無之數人申合
之上抱合之堰并作場道ハニ致置ル者者
過料三貫六百文其外本文之通
〔二〇才〕

〔四〇〕

青田を賣渡ル者御仕置之事

賣渡ル錢高半分宛
青田を仕付之俣ニ而
双方過料村役過料
賣渡ル者
老貫貳百文本之如ク
買戻可申付事
〔二〇ウ〕

〔四一〕

一 抱之田畑分地致讓渡_レ者御仕置之事

一 抱之田畑分地いたし

賣人買人共鞭十五

他江讓渡_レ者

村役過料壹貫八百文
地面者買戻_セ可申事

但一抱之田畑分地之儀古來_テ御制禁ニ

御座_レ得共いつとなく相緩ミ村役聞届

之上勝手次第讓渡ニ相成罷在_レニ付

〔下ノ礼〕

「此但書者追而地面御改相済_レハ、

御除被_レ仰付_レ様

〔二一才〕

御再檢同様地面御改後ニ無御座_レ得者

冲茂難相改奉存_レ間夫込之内御咎メ

御有免被 仰付_レ様重而地面御改之後

分地仕_レ者ハ本文之通被 仰付_レ様

〔四二〕

米金錢貸借捌之事

一 米金錢貸借前々御觸出之趣并

享和三癸亥年十一月文化二乙丑年十月

〔二一ウ〕

御觸直之趣を以取捌可申事

一 借米金錢

一 祠堂金

一 官金

一 書入金

一 立替金

一 先納金

職人手間賃錢 一 手附金

〔二一才〕

諸道具預證文ニ而金子借_レ類

諸物賣渡證文ニ而金子借_レ類

右之分願申出_レ節者借人僉議之上濟方

日限定左之通

錢五貫目以下

三十日限

同五貫目以上

六十日限

同拾貫目以上

百日限

〔二一ウ〕

右之通濟方申付日延不願申出ニをいてハ

時宜ニ應し日延申付其上濟方不埒ニ_レハ、

身代限可申付事

但濟方申付_レ而茂不埒之輩有_レ之_レハ、

急度咎メ可申付事且又不埒之貸方

〔二一才〕

之類者遂吟味品ニ寄貸主茂可相咎事

連判之證文有之諸道具

仲間事ニ付無取上

徳用割合請取_レ者

無尽金錢

證文有_レ之_レとも仲間事ニ

相決_レニ付取上仲間事

〔二一ウ〕

同寄附込帳ニ記_レハ

借金印形無_レ之分

無取上

一五七

一 宛所無之 證文 無取上
年号無之

一 證文之未利足定書載 無取上
有之其所ニ印形無之利足
家賃金質地金并
〔二四才〕

一 諸借金宛所違之 無取上
證文を以於訴出者

但證文讓受由申由共證據無之者取上

中間鋪事

一 九而家賃并諸借金出入訴出由節式步 〔一四ウ〕
以上之利足ニ由ハ、式步ニ直し濟方可申付事

〔四三〕

借金銀分散申付方之事

一 金銀借り方之者身代分散之節貸方
之内少々不得心之者有之由願出由ハ、
分散請由様申付若不得心ニ由ハ、得心
之者斗江分散割合為相渡可申由尤
借り方之者身上持次第割合請由者茂
不請者と一同ニ追而相掛由様可申渡事

〔一五才〕

〔四四〕

一 家賃金 何ヶ年以前ニ而茂金高ニ
應し日限濟方
可申付事

但日限之上滞ニを以てハ家賃可為相渡
日限之内之宿賃も濟方可申付由尤
年季之内ニ而茂宿賃滞三ヶ月過
訴出由ハ、取上ケ可申事 〔一五ウ〕

家賃金滞日限定

一 錢壹貫目以下 三十日限

一 同壹貫目以上 四十日限

一 同三貫目以上 六十日限

一 錢五貫目以上 八十日限

一 同拾貫目以上 百五十日限

但拾五貫目以上者見合日限可申付事

借主 追院

一 寺附之品書入又者 證人寺院ニ由ハ、

賣渡證文を以金子 禁足

於貸借由者 俗人ニ由ハ、
戸メ

〔一六才〕

〔下ケ札、朱書〕

「此所戸メ御定書ニハ手鎖と

有之ニハ手鎖之義穿鑿可致事」

但銀主者不埒之貸方ニハ間濟方不及

沙汰

〔一六ウ〕

隨成以質物借ハ金錢

家質ニ準金高ニ應シ
濟方日限可申付事

但日限之上於滯者質物流シ可申付事

為替金不相渡不埒

自分預リ之物私曲之
簡条を以刑を加ヘ可申事

之訳銀主ル於申出者

〔一七オ〕

家質并諸借金有之者

上納相立不申家藏屋鋪 上江御取上被

仰付外銀主江分散物無之借方不埒之者

盜賊ニ準三等を減刑を加ヘ可申事尤

鞭三十里追放迄ニ而許可申事

〔四五〕

二重質二重書入二重賣御仕置

之事

〔一七ウ〕

質入主

鞭廿四五里追放

質入主

田畑屋鋪二重ニ
質入いたしル者 鞭十八所拂

加判人
所拂

但二重書入も同断田畑屋鋪建家ホ者

初之銀主江相渡後銀主江者家財取上

可相渡尤名主村役加判人馴合禮金取ルハ、

鞭廿四五里追放後之銀主存存質地書入ホ

證文取ルヨを以テハ三里追放

諸商賣物貸金請取其品

錢者尅貫目以上

不渡外江二重賣致シ又者

雜物者代錢ニ積リ

取次可遺品質置并賣拂

尅貫目以上
死罪

或ハ金錢致横取ル者

〔一八ウ〕

但先入窄申付代金又者商賣物ニ而なりとも

於相濟者尅貫目以上者三里追放尅貫目

以下者所拂
右買取ル者若不念之任方有之ニを以テハ

其品取上可申事

〔四六〕

偽之證文を以米金錢貸借致ル者

〔一九オ〕

御仕置之事

金錢借用之證文及

露顯^レ而者難立筋

又者支配頭或者申訳

難立者ニ名を偽文言

之内江書入金錢借^レ者

但右之趣乍存貸^レ者死罪

死罪

〔一九ウ〕

〔四七〕

御收納遲滞^レ者御仕置之事

御收納者年々十一月

晦日迄皆済可致若

翌正月迄無故して

皆済無^レ者

御收納之高十分ニ割

一分滞^レ得^レ者鞭三二分

每^レ二^レ等を加へ可申事

尤鞭九^レ而許可申事

〔二〇オ〕

〔四八〕

御用物内借御仕置之事

御藏廻^レ之者御藏^レ

米錢を内借致^レ者

但御藏廻^レ之者ニ無^レ之ハ、一^レ等輕く申付

入墨許可申事

米錢之高を以盜賊ニ

準罪^レ一^レ行ひ可申事

〔五〇〕

人別帳ニ茂不加他^レ之者差置^レ者御仕置之事

人別帳ニ茂不加他^レ之者

差置^レ者

差置^レ者

戸メ廿日

名主村役

叱り

〔二一オ〕

〔四九〕

關所ニ可成田畑家屋鋪を隱置^レ村役町役御仕置之事

器財之類自分^レ之物を以

御藏内^レ之物与取替^レ者

右同斷

〔二〇ウ〕

關所ニ可成田畑家屋鋪を
於隱置者
村役名主役義取放
過料三貫文
五軒組合
過料三貫文

但不存^レをいてハ叱り

〔五一〕

煩^レ旅人を宿送致^レ者御仕置之事
煩^レ旅人療治茂不加
其上宿次送出^レをいてハ
村役町役義取上

〔二一ウ〕

旅籠屋所拂

〔五二〕

御印紙并御切手紙御印札紛失之者
御仕置之事

御印紙紛失致ゆ者并 過料銀壹枚上納之上

御切手紙紛失致ゆ者 五日戸メ
〔二三オ〕

但書付有之ハ共同断戸メニ不及

御印札紛失致ゆ者 過料銀壹枚

但急變ホニ而紛失之節證據於分明者

不及過料事

旅人御印紙紛失之節 旅人之往來宿
戸メ五日

〔二三ウ〕

〔五三〕

御関所忍通ゆ者御仕置之事

御関所を忍通ゆ者 鞭十五

山越いたしゆ者 鞭十八所拂

〔五四〕

立帰者御仕置之事

科有之追放被仰付ル後 最初御仕置ル一等

御擗之地江立帰ゆ者 重く可申付事

〔三三オ〕

入墨を抜御擗之地江 入墨之上前々御仕置ル

立帰ゆ者 一等重く可申付事

但立帰之後徒刑ニ當リハ惡事致ゆ者死罪

惡事有之出奔致し 本罪ル一等重く可申付事

其後立帰忍居ゆ者

但本罪輕ハ共山越いたし立帰ゆ者者 〔二三ウ〕

斬罪御関所忍通ゆ者者鞭三十里追放

右同立帰惡事致ゆ者 本罪ル二等重く可申付者

但鞭三十里追放以上之惡事いたしゆ者ハ

死罪

惡事無之出奔之後 御関所外江出不申ゆ得者

立帰ゆ者 過代夫役廿日 〔二四オ〕

〔五五〕

隠津出并隠荷擗致ゆ者御仕置之事

隠津出致ゆ者 品物取押

米拾俵以下 鞭十五

同拾俵以上 右同 鞭十八所拂

同五拾俵以上 右同 鞭廿一三三追放

同百俵以上 右同 鞭廿四五里追放

一 同百五拾俵以上 右同 〔二四ウ〕

一 同式百俵以上 右同
鞭三十里追放
家屋鋪家財闕所

一 隠津出之宿致_レ者 本人同罪

一 同五軒組合之者共 五軒組合四軒_ノ
過料六貫文

但百俵以上隠津出致_レ五軒組合之者共過料

拾式貫文尤村役過料之定凡例ニ有之

〔二五オ〕

一 隠津出米取賦_レ者 過料壹貫八百文宛
旅人ニ_レハ、

隠積之品取上入津御差留

御領内之者ニ有之_レハ、
本人同様之御仕置船

一 隠津出相對致_レ船頭 取上可申事

水主之者

過料壹貫八百文宛

一 旅船隠荷揚致_レ者 〔二五ウ〕
隠荷上之品物取押入津御差留

一 隠荷揚相對致_レ間屋 家業取放
鞭九

〔五六〕 米留所無手形米忍通_レ者御仕置之事

米留所無手形米忍 荷物取押
鞭九
通_レ者 駄賃附之者
過料壹貫八百文宛

但自分馬ニ有之_レハ、馬共取押可申事 〔二六オ〕

駄賃附之者被雇_レニ相違無之_レハ、馬を
相返可申事

〔五七〕 隠商賣致_レ者御仕置之事

一 隠商賣致_レ者 品物取押過料

但過料之定戸数方條例有之事

一 賣人買人を持似せ物商_レ者 鞭十五 〔二六ウ〕

〔五八〕

廻船荷物出賣出買并船荷物押領
致_レ者御仕置之事

賣買之品物代錢ニ差積

一 船荷物出賣出買致_レ者 過料
旅人ニ_レハ、賣買之荷物

代金取上入津御差留

但荷物代人主共ニ取上間屋附之荷物ニ

有之ハ、荷物問屋江可相渡事

〔二七オ〕

船頭
獄門

打荷或者破船与唱

上乘

荷物押領いし者

同罪

水主入墨之上

鞭十五

但吟味之上浦證文者有之ハ共類船無之

〔二七ウ〕

差而い多々不申ハ處致荷打ハニをいてハ

船頭過料拾貫文上乘同三貫文水主

無構

遭難風致打荷ハ殘

荷物を盜取ハ船頭与

死罪

馴合湊方相欺き浦

證文ハ取遣配分取ハ者

〔二八オ〕

同盜荷物自分土藏江

徒老年半

入預置配分取ハ者

鞭三十

同船頭之宿致馴合

鞭三十

村中之者江申勸メ配分取ハ者

十里追放

同百姓之内重立致持運

鞭廿七

世話配分取ハ者

七里追放

同盜荷物配分取ハ百姓

鞭十二

〔二八ウ〕

〔五九〕

盜賊御仕置之事

一 都而盜物之品者被盜ハ者江相返可申ハ

金錢遣捨ハ、可為損失盜物取戻ハとも

科之無差別

一 凡而盜賊之類不殘入墨可致事

〔二九オ〕

一 盜メ忍入人を殺ハ者

當人
磔

一 但同類之内助力不致者ハ盜賊を以沙汰

可致事

當人

一 同疵付ハ者

獄門

一 但忍入ハニ無之ハ共盜可致与存人ハ疵

付ハ者ハ死罪同類之内助力不致者ハ

〔二九ウ〕

一 盜賊を以沙汰可致事

一 盜ニ入刃物ニ無之外之

當人

一 品ニ而人ニ疵付ハ者

斬罪

一 但同類之者助力不致ハ、盜賊を以

沙汰可致事

〔三〇才〕

人家江忍入ハ盜賊財物を

捨遁去ルを其家内之者

追懸ルニ付手向致ル者

科人手向之御仕置
を以沙汰可致事

強盜可致与徒黨致

財物を取ル得者同類不殘
磔

人家江押込ル者

財物を取不申ル得者同類不殘
斬罪

財物を取ル得者不拘多少
〔三〇ウ〕

斬罪

土藏を破リ盜致ル者

財物取不申ル得者

徒老年半

鞭三十

但同類者一等輕く可申付事

盜賊之手引致ル者

本人同罪

〔三一才〕

片輪者を殺ル而所持之

引廻之上
獄門

品を盜取ル者

但盜取ル斗ニ而於不殺者鞭三十里

追放高多ルハ、盜賊之刑ルニ等重く

可申付事

同類共

獄門

追剝致ル者

〔三一ウ〕

追落おちいりしル者

斬罪

白昼びやくちゆう人ノ物ヲ

鞭三十

奪取ル者

但盜取ル高多キ節者盜賊之刑より

二等重く可申付事尤同類ハ一等輕く

可申付事

人ノ疵付ル得者
〔三二才〕

巧を以人を打擲致

物不得取ル共疵付ル得者

同類之内ル取扱物を

死罪

疵ひら取り取ル者

物不得取疵付不申ル得者

徒老年半

鞭三十

但同類之者一等輕く可申付事

喧嘩けんわハ致財物を奪取ル者

鞭三十

但取ル物高多クハ、盜賊之罪ルニ等

〔三二ウ〕

重く可申付事同類之者者一等輕く

可申付事

巾着切之類者常之盜賊を以沙汰可致事

盜致ル者盜取ル高ニ應シ輕重之

罪科ニ可行事

罪科ニ可行事

- 一 錢貳貫五百文以下 鞭三 〔三三才〕
 - 一 同貳貫五百文以上 同六
 - 一 同五貫文以上 同九
 - 一 同七貫五百文以上 同十二
 - 一 同拾貫文以上 同十五
 - 一 同貳拾貫文以上 同十八所拂
 - 一 同三拾貫文以上 同廿一三里追放 〔三三才〕
 - 一 同四拾貫文以上 同廿四五里追放
 - 一 同五拾貫文以上 同廿七七里追放
 - 一 同六拾貫文以上 同三十里追放
 - 一 同七拾貫文以上 徒半年鞭三十
 - 一 同八拾貫文以上 徒老年鞭三十
 - 一 錢九拾貫文以上 徒老年半鞭三十 〔三四才〕
 - 一 同百貫文以上 斬罪
- 右錢高を以罪之輕重を定む事尤盜取の
品幾人ニ而分ケル而茂分前之高ニ不拘盜取の
本高を以罪を加へル事同類之者者一等
輕く可申付事
- 但兪議之節數家ヲを以て盜取の儀相頼と 〔三四ウ〕

〔六〇〕

- 一 いへとも只一家之盜高多きを以罪を定む事
米穀ホ者時之直段を以錢ニ直し品物ハ
直打致させ錢ヲ差積可申事尤一夜ノ
五軒以上江盜ニ入錢高五十貫文以上之
品物盜取ル者ハ斬罪 〔三五才〕
 - 一 盜ヲ忍入ル而茂品物 鞭三
 - 一 盜取不申者者 入墨許之
 - 一 但武士屋鋪江忍入ルハ、二等重く可申付事
 - 一 自分預之物私曲致ル者御仕置之事
 - 一 御預之物を私曲いし盜取ル者頭取同類之
差別無之盜取ル錢高を以罪を定む事 〔三五ウ〕
 - 一 尤幾人ニ而分ル而茂分前之高ニ不拘盜取ル
本高を以一人毎ノ罪を加へル事
- 定
- 一 錢貳貫五百文以下 入墨之上 鞭九
 - 一 同貳貫五百文以上 同十二
 - 一 同五貫文以上 同十五
 - 一 錢七貫五百文以上 鞭十八所拂 〔三六才〕

料

資

定

入墨之上
鞭六

錢五貫文以下

同五貫文以上

同拾貫文以上

同拾五貫文以上

錢貳拾貫文以上

同貳拾五貫文以上

同三拾貫文以上

同四拾貫文以上

同四拾五貫文以上

同五拾貫文以上

同五拾五貫文以上

同八拾貫文以上

但御藏廻之者私曲致ゆ分者死罪之代り

徒貳年鞭三十尤其趣意重き者斬罪

難船(等)ホ之節乱妨致ゆ者御仕置之事

難船ホ之節便ニ乗シ

乱妨致ゆ者

〔三九才〕

鞭三十

十里追放

同拾貫文以上 同廿一三里追放

同拾貳貫五百文以上 同廿四五里追放

同拾五貫文以上 同廿七里追放

同拾七貫五百文以上 同三十里追放

同貳拾貫文以上 徒半年鞭三十〔三六ウ〕

同貳拾五貫文以上 同壹年鞭三十

同三拾貫文以上 同壹年半鞭三十

同四拾貫文以上 死罪之代り
徒二年鞭三十

但四拾貫文以上其趣意重き者時宜

御沙汰之上死罪ニ茂入可申事

〔六一〕

御藏之財物を盜取ゆ者御仕置之事

御藏を破り盜致ゆ者 同類共 獄門 〔三七才〕

但財物を取不申ゆ得者斬罪

御藏之財物を盜取ゆ者并御藏廻之者共

御藏之財物を私曲致ゆ者頭取同類之

差別無之盜取ゆ錢高を以罪を定ゆ事

尤幾人ニ而分ケゆ而茂分前之高ニ不拘

盜取ゆ本高を以一人毎尔罪を加へゆ事

〔三七ウ〕

〔六二〕

但取ル者高多ハ、盜賊之罪ニ二等重ク
可申付事同類之者者本人より一等
輕ク可申付事

〔六三〕

度々盜致ル者御仕置之事

〔三九ウ〕

盜賊入墨式度ニ及ビ

斬罪

又々盜致ル者

〔六四〕

盜人を搦捕不訴出者御仕置之事

盜人を召捕雜物取返

村役名主并當人共
支配頭ニ而叱リ

内證ニ而逃シ遣ル者

但死罪ニ可相成盜人を内證ニ而逃シ

〔四〇オ〕

遣ルハ、村役名主當人共過料志貫文

〔六五〕

盜賊之宿致ル者御仕置之事

一 追剥強盜之宿致ル者 本人同罪

一 盜賊之宿致ル者 本人同罪

但財物を配分不致ル得者一等輕ク可申付事

〔六六〕

盜物質ニ取ル者并預ル者又者賣買

致ル者御仕置之事

〔四〇ウ〕

一 強盜并凡而盜賊之盜物を乍存買ル者

品物錢ニ差積盜賊之刑ニ二等輕ク可申付事

乍存預置ル者又一等輕ク可申付事

但品物之高多く共輦十五ニ而許可申事

若不存ル得者御搦無之品物者本人江

返可申事

〔四一オ〕

一 盜物与不存證人取之如通例質ニ取吟味

之上盜物之儀不存訳ニ決ルハ、證人ニ元金

為償質物者取返被盜ル者江相渡可申事

但證人茂御仕置ニ成リ金子可差出方

無之ルハ、質屋可為損金事尤證人

取不申ル得者質屋可為損金事

〔四一ウ〕

一 盜物与不存品物買取ル者其品取返シ

被盜ル者江相返可申事尤證人を取買取

ルハ、證人ニ代金買主方江可相渡事

但被盜ル品有所不相知代金盜人

所持致ルハ、取上被盜ル者江可相渡ル

〔四二オ〕

尤盜物質主ヲ取返セル上代金盜人

所持致ひ共買主無念ニハ聞右金子
没収可致事

盜物与不存買取賣拂ひ節者賣先段、
相糺代金を以買戻させ被盜者江相返せ
盗人ハ初發買取ひ者損金ニ可申付事

但賣先不相知ハ、初發買取ひ者ハ
被盜者江代金ニ而為償可申事

紛失物町觸之節
品物錢ニ差積盜賊之
刑ハ一等輕く可申付事
隱置ひ者

〔六七〕

入墨を抜取ひ者御仕置之事

盗いし入墨ニ被行ひ者
其後ひそ（かじ）ゝ抜ひ者
鞭三

但入墨仕直可申事
〔四三才〕

入墨拔遣ひ者
過代夫役廿日

〔六八〕

金子遣捨ひ飛脚御仕置之事

金子入之書狀請取
途申ニ而切解遣捨ひ
金高不依多少
引廻之上

飛脚
斬罪

〔四三才〕

〔六九〕

火附御仕置之事

火を附ひ者
引廻之上
火罪

但燃立不申ハ、引廻之上斬罪

人ニ被頼火を附ひ者
火罪

同頼ひ者
火罪

火を附ひ者年を越於願者
死罪

但十二ヶ月を年与相立ひ事
〔四四才〕

火附を召捕又ハ訴人ニ出ひ者
御褒美人數之不依多少
銀三十枚

遺恨を以火を付へき旨
鞭三十

張札又者投文致ひ者
徒貳年

〔七〇〕

牛馬盗人御仕置之事

牛馬を盜取他領江
〔四四才〕

忍出ひ者并御領内ニ而茂
斬罪

賣渡ひ者

但御領内ニ而いまゝ不賣渡者ハ鞭三十

徒壹年半

他領之悪者引入盜

斬罪

牛馬之手引致ゆ者

〔四五オ〕

但於御領内馬取返ゆ得者手引いゆし

ゆ者者鞭三十徒壹年半

盜牛馬乍存買取ゆ者

徒壹年半
鞭三十

但不存買取ゆニ於無紛者御搆無之

盜牛馬之儀賣先相知ゆ分者本人江

相返せ可申事

〔四五ウ〕

手段を以牛馬を

鞭廿四

他領江隱賣致ゆ者

五里追放

〔七二〕

無札之馬賣并馬札紛失致ゆ者

御仕置之事

無札之馬賣買致ゆ者

鞭三

馬札紛失致ゆ者

過料壹貫文

〔七三〕

盜袖御仕置之事

〔四六オ〕

盜袖致ゆ者袖取之切株小口を以寸面を取丈々者

式間といゆし三段ニ相定代錢ニ差積御藏之財物を

盜取ゆ箇条を以刑を加へ可申事尤入墨者許可申事

但一村申合盜袖有不殘刑ニ難行節者

あるなひ過料ハ差出せゆ義時宜御沙汰之事

伐株三段之直段定左之通

〔四六ウ〕

杉檜伐口差渡貳寸以上 式間丸太直段

同伐口差渡五寸以上 六寸角直段

同伐口差渡壹尺以上 六寸角一倍直段

右直段を以相究可申ゆ雜木者檜る三割

下ヶ直段を以積り可申事尤木品有之分者

不殘取上可申事

〔四七ウ〕

村役五軒組合過料定凡例ニ有之

御留山ニ而柴薪伐取ゆ者 過料壹貫文尤伐取之

高多くゆ節者錢ニ差積 一倍之過料上納可

申付事

御留山ニ無之ゆ而茂 前書同断尤伐株斗ニ而

御停止木伐荒ゆ者 木品無之節者雜木之

伐株積を以沙汰可致事 〔四七ウ〕

流木過木伐取ゆ者 過木取上 過料三貫文

但御極印打入以前過木賣拂ゆニをいてハ

右代錢上納之上御藏之財物を盜取ゆ

簡条を以^{〔カ〕}あるなひ過料差出せ可申事

一 杉檜末木盜取^{〔七〕}者

御定直段半分ニ致
刑を加へ可申事
〔四八ウ〕

山下村

一 山中伐荒有之當人
相知連不申^{〔七〕}節

杉檜末木之代り小杉
百本宛植付雜木末木
之代り小杉五十本宛植付
可申付事

但植付木之儀植付之多少ニ寄三ヶ年

或者四ヶ年五ヶ年七ヶ年迄之内年限

相定植付可申事尤被仰付之年限^{〔七〕}

植付不申節者伐荒相當之あるなひを以
〔四八ウ〕

過料上納可申付事

一 無極印材木賣買致^{〔七〕}者

本品取上之上盜物乍存
賣買致^{〔七〕}のケ条を以刑を
加へ可申事

〔七三〕

洪水之節流失木隠揚^{〔七〕}ケ致^{〔七〕}者御仕置

之事

〔四九ウ〕

一 洪水之節流水隠揚^{〔七〕}ケ致^{〔七〕}者過料左之通

一 拾本以下
過料壹貫貳百文

一 拾本以上
同壹貫八百文

一 貳拾本以上
同貳貫四百文

一 三拾本以上
同三貫文

一 四拾本以上
同三貫六百文

一 五拾本以上
同四貫貳百文

一 六拾本以上
同四貫八百文

一 七拾本以上
同五貫四百文

一 八拾本以上
同六貫文

一 九拾本以上
同六貫六百文

一 百本以上
同七貫貳百文迄ニ而免可申事
〔五〇ウ〕

〔七四〕

田畑之穀物を盜取^{〔七〕}者御仕置之事

入墨之上

一 田畑之穀物を盜取^{〔七〕}者
盜賊之刑^{〔七〕}ニ三等
重く可申付事

一 野菜^{〔七〕}を^{〔七〕}わし^{〔七〕}いま^{〔七〕}に盜取^{〔七〕}者
盜品代錢ニ差積り
盜賊を以刑を加へ
可申事

但入墨許之

〔五〇ウ〕

一 柴草木石之類人功を以
右同斷罪を定^{〔七〕}事

一 伐取或者積置^{〔七〕}を^{〔七〕}わし^{〔七〕}
ま^{〔七〕}に取^{〔七〕}者

〔七五〕

人を勾引ひ者御仕置之事

一 人を勾引他領江賣出ひ者 斬罪

但いま不賣者ハ鞭三十里追放
〔七五〕 〔五一才〕

一 人を勾引御領内江賣渡ひ者 徒老年半
鞭三十

但いま不賣者者鞭廿七
七里追放

一 勾引者与存買受ひ者 賣渡ひ者ら二等
輕く可申付事

但於不存者御搆無之

一 勾引ひ者与馴合賣遣 本人之刑ら一等
輕く可申付事

一 分前取ひ者 自國他國之差別無之
〔五一ウ〕

一 人を勾引ひニ付其者ニ 獄門

疵付ひ者

〔七六〕

謀書謀判致ひ者御仕置之事

一 奉行諸役人之判を

似せ造り諸渡物ホ 當人 獄門

一 盜取ひ者 死罪

但いま財物を不取得ひ得者本人死罪
〔五二才〕

一 一等を減し同類者徒刑一等を減し

可申事

〔七七〕

似せ印形似せ手紙

一 或ハ古手形を取捨

公私之物を取ひ者

物取ニ無之申訳之為斗ニ

一 役所向之手形を謀書

致し有合之印形押ひ類

一格同士又者町人同士

右躰之申訳之為斗ニ而

役所向之手形ニハ無之共

謀書致ひ者

入墨之上

錢高を以盜賊より
二等重く可申付事

〔五二ウ〕

鞭十八
所拂

鞭十二

〔五三才〕

巧事かろり事重き〔わた〕かろり事致ひ者

御仕置之事

一 かろり事之品對

上ひ者

但右以下者盜賊之罪より五等重く可

申付事

一 巧なる儀を申掛五度

以上金子を語り取者

金高雜物多少ニよら須
〔五三ウ〕

斬罪

但四度迄者雜物代錢之多少を以盜賊之

刑を加へ可申事

惣而催促ニ逢或者預ケ物ホ〔等〕

一 届來ハ人江申懸いふし 鞭三十
十里追放

疵付又者打擲致ゆる者

〔五四才〕

但刃物ニ而疵付ゆるハ、死罪

重き役人之家來与

一 偽かゝり致ゆる者 鞭十五

但取ゆる物高多き節者盜賊之刑を以二等

重く可申付事

〔七八〕

役人を似せゆる者御仕置之事

〔五四ウ〕

在ゝ通り役人を似せ

一 往來之人馬賄ホ為 鞭三十
十里追放

差出ゆる者

但賄并人馬者不為差出ゆる共帶刀之上

役人与偽り村方之扱ニ成ゆる者ハ鞭廿四

五里追放

〔五五才〕

〔七九〕

帶刀致ゆる百姓町人御仕置之事

自分与帶刀致し

刀脇差取上

一 罷在ゆる百姓町人

叱り

〔八〇〕

似せ金銀を拵ゆる者并錢を鑄ゆる者

御仕置之事

一 質金銀を拵ゆる者并

磔

私ゝ錢を鑄ゆる者

〔五五ウ〕

但細工人同罪其餘加談之者ハ徒壹年半

鞭三十可申付事

一 質金銀乍存通用致ゆる者

徒壹年半
鞭三十

〔八一〕

質秤質升を拵ゆる者御仕置之事

一 質秤拵ゆる者

獄門

但懸ケ目違於無之者鞭廿四五里追放

〔五六才〕

一 質升拵ゆる者

獄門

但入目違於無之者鞭廿四五里追放

〔八二〕

似せ薬種商賣致ゆる者御仕置之事
一 似せ薬種商賣致ゆる者 死罪

〔八三〕

賄賂を受不筋之捌扱いしゆる者
御仕置之事

錢高五貫文以下 〔五六ウ〕

鞭六

五貫文以上

鞭九

五貫文毎一 等宛

重く可申付事尤百

廿貫文以上死罪之代り

鞭三十徒貳年ニ而許

可申事

〔五七オ〕

一 受不筋之捌或者扱
いしゆる者

但何人を受ゆる而茂惣錢押合其高を以

罪を定ゆる事若其事重くハ、具負

偏頗を以人之罪を或者重くし或者輕く

致ゆる簡条を以刑を加へ可申事

〔八四〕

賄賂を受ゆる斗ニ而不筋之捌扱
無之者御仕置之事

拾貫文以下

鞭三

〔五七ウ〕

〔八五〕

村役町役之類頼を受
賄賂を取ゆる斗ニ而不筋之
捌或者扱不致者
拾貫文以上
鞭六
拾貫文毎一 等重く
可申付事尤百廿貫文
以上徒壹年半鞭三十二而
許可申事

〔五八オ〕

但何人を受ゆる而茂惣錢押合半分ニ

致し罪を定ゆる事尤老人を受ゆる分者

半分ニ不致事

不筋之財物を取ゆる者御仕置之事

拾貫文以下

戸メ廿日

拾貫文以上

戸メ三十日

〔五八ウ〕

一 打擲ニ逢ゆる者

療治代之外ニ錢を

ゆそり取ゆる者之類

拾貫文毎一 等重く

可申付事尤百式拾貫文

鞭三十里追放ニ而許

可申事

但惣錢半分ニいし罪を定ゆる事前条
同様之事尤あゆる者ハ五等輕く
可申付事

〔五九オ〕

町役村役ニ而諸年貢

上納錢諸割合物定

一 高之内自分依怙

右同断

畏負之者る少く取立

外く之者る多く取立埋合ニ致は類

但書前条同断

〔五九ウ〕

〔八六〕

賄賂之約諾致は者御仕置之事

一 賄賂之約諾致しま財物手ま入

不申は共事をは枉は者ハ賄賂を受不筋之

捌扱致は簡条ニ準し一等輕く可申付事

約諾而已ニ而事をは枉不申は得者賄賂を

受不筋之捌扱不致簡条ニ準し一等

輕く可申付事

〔六〇オ〕

〔八七〕

賄賂を贈は者御仕置之事

一 下之者願事有之賄賂を贈は而法越

枉は事を得はハ差出は錢高を以不筋之

財物を取は簡条ニ準し刑を加へ可申事

枉は事無は得者右之刑る三等輕く

〔六〇ウ〕

可申付事尤枉は事重くハハ、重き方ニ而

沙汰可致事若上る人強而無據

差出はハ、御答メ無之事

〔八八〕

茂合取立私曲いしは者御仕置

之事

一 茂合錢為差出私曲致は者

賄賂を受不筋之捌

但ら假ニ相用自分遣不申は共同様

之事

〔八九〕

拾ひ物いし不訴出者御仕置之事

一 拾ひ物いし不訴出義

顯ニをひいてハ

〔四 行 空 白〕

拾ひ物取上
過料疋貫貳百文

〔六一ウ〕

〔六一オ〕

〔六一オ〕
賄賂を受不筋之捌
扱いしは簡条ニ準し
錢高を以刑を加へ
可申事

〔表紙〕

刑 法 人

〔縦 23.3 cm 横 17.2 cm〕

〔九〇〕

宿意を以人を殺し者并疵付し者
御仕置之事

- 一 宿意を以人を殺しし者 張本人 獄門
- 一 同加談手傳致し人を殺しし者 斬罪
- 一 同加談斗ニ而手傳不致者并人殺之手引 徒老年半 鞭三十
- 一 いし手傳不致者 張本人 斬罪
- 一 同疵付し斗ニ而不死時者 張本人 斬罪

〔二才〕

〔九一〕

但加談手傳致し者ハ徒老年半鞭三十

張本人

〔二ウ〕

同疵付不申共其事を

鞭三十里追放

行ひし得ハ

加談手傳之者 鞭十五

右之張本人ハ多とひ其場ニ不臨しとも

〔二エ〕

本罪前書同然之事加談之者ハ其場ニ不臨し得者其場ニ臨し者ハ罪一等を

許可申事

人を殺しこれニ依て

張本人加談人不殘

〔二オ〕

財寶を取し者

磔

右同加談人之内財物を

斬罪

分ヶ取不申し得者

宿意を以主人或者主人之親族

古主を殺し者又者為手負し者

〔二カ〕

御仕置之事

主殺

一日引廻二日肆 磔

磔

主人ニ為手負し者

肆之上 磔

- 一 同切かゝ里打かゝ里^(四)者并
打擲いゝし^(四)者 獄門
- 一 人を頼主人を殺^(三)者 自身主人を
殺^(三)と^(三)同罪 獄門
- 一 同被頼^(三)者 獄門
- 一 主殺^(三)之者自滅^(三)ニをひてハ 凡例ニ出之
家屋鋪取上家財關所
之上
- 一 主殺^(三)之者之悴 拾里追放 〔三ウ〕
- 一 但十五歳以下ニ^(三)ハ、追放之儀申渡身寄
之者共江預ケ置十五歳ニ相成追放可致事
- 一 主人を怪我ニ而殺^(三)者 斬罪
- 一 同怪我ニ而疵付^(三)者 徒宍年半
鞭三十
- 一 主人之親類を殺^(三)者 獄門 〔四オ〕
但親類与ハ服忌有之者并重き縁類ハ
時宜之御沙汰可有之事
- 一 主人之親類江為手負^(三)者 斬罪
- 一 同切かゝ里打^(三)ゝ里^(三)者 鞭三十
徒^(三)年

〔九二〕

- 一 古主を殺^(三)者 肆之上 磔
- 一 同為手負^(三)者 獄門 〔四ウ〕
兼而巧^(三)事ニ有之^(三)ハ、
斬罪
- 一 同切かゝ里打^(三)ゝり^(三)者 當座之事ニ有之^(三)ハ、
徒^(三)年鞭三十
- 一 宿意を以親或者親族を殺^(三)者并手負^(三)
者御仕置之事 〔五オ〕
- 一 親殺 一日引廻^(三)二日肆
鋸引之上 磔
- 一 親江為手負^(三)者 肆之上 磔
- 一 同切かゝり打^(三)ゝ里^(三)者并 獄門
- 一 打擲いゝし^(三)者 家屋鋪取上家財關所之上
親殺之者之悴 拾里追放 〔五ウ〕
- 一 但十五歳以下ニ^(三)ハ、追放之儀申渡身寄
之者江預ケ置十五歳ニ相成追放可致事
- 一 親殺之者自滅^(三)ニをいてハ 凡例ニ出之
- 一 親を怪我ニ而殺^(三)者 斬罪

但怪我之證據慥ニ而被殺_レル者之親或者
兄弟_ノ助命之願於申出者時宜御沙汰
之事

〔六才〕

親を怪我ニ而疵付_ル者
徒老年半
鞭三十

但親之願ニ寄御用捨之事

祖父母以上并妻夫之
引廻之上
磔

祖父母或者夫を殺_ル者

但母方之祖父母同様之事

同為手負_ル者
獄門

〔六ウ〕

同切かゝ里打_ルり_ル者
斬罪

伯叔父姑兄姉を殺_ル者
磔

同為手負_ル者
斬罪

同切かゝ里打_ルり_ル者
徒老年
鞭三十

〔七才〕

子并孫を殺_ル者
徒老年半
鞭三十

但偽をい_ハし錢を添貫_ル養子を殺_ル者

死罪

弟妹_{〔弟妹〕}娼姪を殺_ル者
斬罪

〔九三〕

宿意を以師匠を殺_ル者并疵付_ル者
御仕置之事

〔七ウ〕

師匠を殺_ル者
磔

同為手負_ル者
死罪

〔九四〕

宿意を以支配受_ル頭分之者殺_ル者并
疵付_ル者御仕置之事

支配を受_ル頭分を殺_ル者
獄門

同為手負_ル者
死罪
〔八才〕

〔九五〕

一家之内三人を殺_ル者御仕置之事
一家之内死罪ニあらざる
引廻之上

人三人を殺_ル并人之支體を
磔

切_レるときむこく殺害致_ル者
家財關所死者之家江
並下_ル事

但妻子者遠追放致加談_ル者并手傳
い_ハし_ル者共ニ
獄門

〔八ウ〕

〔九六〕

呪詛調伏毒薬を以人を殺_ル者并
苦しめ_ル者御仕置之事

一 呪詛調伏を以人を 宿意を以人を殺さんと
殺さんと〔むむ〕のりゆ者 謀る簡条を以罪を加へ
可申事

一 同唯人を苦めんと謀ゆ者 前書之刑より二等を
減ゆ事 〔九オ〕

一 毒薬を以人を殺ゆ者 獄門 〔九オ〕

一 同毒薬を用ゆ得共 徒老年半
其者於不死者 鞭三十

一 右同薬を買ゆ而〔む〕いまい不用ゆ者 鞭三十
十里追放

毒〔む〕のひニ相用ゆ儀を

本人同罪

但不知時者御咎無之事

〔九ウ〕

〔九七〕

喧嘩打擲ニ而人を殺ゆ者御仕置
之事

一 喧嘩打擲ニ而人を殺ゆ者 斬罪

一 同謀而人を打擲い〔む〕し依之死ニ至ゆ得者

急所之疵を得させゆ者解死人ニ可致事

但最初仕事を企ゆ者ハ徒老年半

鞭三十餘人者何連も鞭十五尤急所之

〔二〇オ〕

疵を附ゆ者不相分節初發打か〔む〕り
ゆを下手人と可致事

一 相手方理不尽之儀を 相手方親類村役
名主會議之上被殺ゆ者 〔二〇ウ〕

一 仕懸不得止事切殺ニ 平日不法者ニ相違於
をいてハ 無之者
徒老年半
鞭三十

但御家中召仕之者ハ被殺ゆ者之

主人ハ願無之ゆハ、假令親類ハ願ゆ共

差許申間鋪事

〔二一オ〕

〔九八〕

危き仕業をい〔む〕し人を殺ゆ者
御仕置之事

一 危き仕業をい〔む〕し 打擲ニ而人を殺ゆと
人を殺ゆ者 御仕置同様之事

人多〔む〕のへい〔む〕し別人を殺ゆ者

〔九九〕

御仕置之事

喧嘩ホニよ里傍之
人を殺或疵付ル者
御仕置同様之事
謀而人を殺さんとして
あやまつて別人を殺し
人殺を以沙汰可致事
或者疵付ル者
〔一〇一ウ〕

怪我ニ而人を殺或者疵付ル者御仕置
之事
吟味之上あやまち
無紛并怪我人之親類
存念相尋ル上あらなひを
取其者江被下ル事
〔一一〇オ〕

罪有之妻妾を殺ル者御仕置之事
妻妾夫之祖父父母を打擲ムより
其夫これを打依而死ム至リル得者御搆
無之若又右之事ニ付強而〔ほ〕しいまニ
殺ル者ハ鞭十五
〔一二ウ〕

但外之罪ホニ寄打殺ハハ、可為下手人事

夫妻妾を打擲し或者罵ホ致ルニ寄
其妻妾自殺致ル者不及御沙汰ル事
〔一三オ〕

離別之妻江疵付ル者御仕置之事
離別之妻ニ疵付ル者
乞食手江下ケル様
〔一〇二ウ〕

弓鉄炮ニ而人を殺ル者御仕置之事
吟味之上あやまちニ無紛并
怪我之親類存念相尋ル上
〔〔レ〕〕
不て人を殺ル者
怪我ニ而人を殺ル箇条を以
刑を加ヘ可申事
〔一三ウ〕

一定リル矢場鉄炮場ニ而外より不慮ニ
人参リ加ハ里若矢玉ニ當リ多ト其人
死ル共不及答三十日遠慮可申付事
〔一三ウ〕

牛馬ニ而人を殺或者疵付ル者御仕置
之事
牛馬を引ルけ人を殺ル者
斬罪
〔一四オ〕

但馬士之者不愼之儀無之怪我同様之
仕方ニをいてハ怪我ニ而人を殺ル箇条を

以てあらなひを取死者之家江被下事

- 一 右之仕方ニ而疵を得させし者 打擲之御仕置を以疵之多少ニ寄刑を加へ可申事

但怪我ニ而疵付し得者あらなひを取疵を得し者
江被下事

〔一〇五〕

人を威し逼らせ死を致さしむる者
御仕置之事 〔一四ウ〕

- 一 事ニ依て人を威し 鞭十五并為片付料金 忒両を出さしめ死者之
- 逼らせ其人ニ自殺致させし者 家江被下事

但若為密通或者盜を致ししめ人を威し
逼らせ死を致させし者ハ獄門

〔一〇六〕

- 一 辻切致し者御仕置之事 〔一五オ〕
- 一 辻切いしし者 引廻之上 獄門

〔一〇七〕

- 一 僧侶人を殺し節并疵付し節御仕置之事
- 一 僧侶人を殺疵付し料 俗人ニ替無之

〔一〇八〕

但寺持者一尊重く可申付事 〔一五ウ〕

人殺内済致し者御仕置之事

- 一 祖父母父母人之為ニ 徒壹年半
- 殺さ連れ越内済致し者 鞭三十

但村役町役加談致し者又者乍存不訴出
しを以てハ過料三貫文五軒組合一組ノ
過料三貫文 〔一六オ〕

- 一 夫被殺しを内済致し者 徒壹年半 鞭三十

- 一 但村役町役五軒組合過料右同断 鞭廿七
- 伯叔父姑兄姉夫之父母 七里追放
- 被殺しを内済致し者

- 一 但村役町役五軒組合過料右同断 鞭九
- 子孫人之為ニ被殺しを内済いしし者

- 一 但村役町役五軒組合右同断 〔一六ウ〕
- 邪曲を以輕き親類 過料
- 縁者人を殺しし義 貳貫文

内證ニ而取扱事濟ル者

但村役町役五軒組合過料上同断

〔一七才〕

本人

鞭三

人殺を内濟致ル者

村役町役五軒組合加談
いしゆ欵又者乍存於不
訴出者村役町役者過料
三貫文五軒組合過料
同断

人殺為内濟賄賂を取ル者錢之高を以

盜賊ニ準し重き方ニ而沙汰可致事

〔一七才〕

父母殺されルを内濟致

斬罪

賄賂を取ル者

同居或者同行之人

初ル其人を謀而害せんと

キルを乍存不留者并

鞭十五

被殺後不訴出者

家焼失之時親焼死ルを

死罪

〔一八才〕

捨置逃出ル者

但祖父母伯叔父母兄弟姉を焼死為致ルニ
をいてハ鞭廿四五里追放

〔一〇九〕

喧嘩打擲御仕置之事

手足或者外之物を以

人を打擲以しル者

戸メ十日

同疵付ル者

戸メ廿日

但打ル處破連須ル共青赤ニ腫ルを疵与定ル事

血鼻口之内より出

鞭九

或者内損血を吐ル者

〔一九才〕

不淨之物を以人之

鞭九

頭面を汚シル者

齒壹枚或者手足之

指壹本を折目片方を

鞭十五

傷并耳鼻を傷ル者

〔一九才〕

湯火を以人を傷ル者并

鞭十五

不淨を以人之口鼻之内江入ル者

齒式枚指式本以上折ル者

鞭十八

人之骨を折或ハ兩眼を傷

所拂

或者婦人之胎を墮し并

鞭廿四

一切之刃物之切疵者

五里追放

但兵器ニ而茂柄を以打込類ハ刃物ニ者
〔二〇オ〕

無之事

手足片方越折

鞭三十

或者目片方を潰しゆ者

十里追放

両手足を折或両眼を

潰し或ハ持病ホ有之処

徒壹年半

是ニより片輪ニ至らしめ

鞭三十

ゆ者并人之陰陽を傷ゆ者

〔二〇ウ〕

但右科人之家財半分を以疵を得ゆ者江

被下ゆ事

右之條々之科人大勢ニ而犯ゆ節付ゆ

疵を以右之箇条江引合夫々之刑ホ

可行事打擲致ゆ而茂疵付不申者者

〔二一オ〕

戸メ廿日ニ而許可申事尤疵付ゆ者之内

重き疵を付ゆ者を本人与定本趣意企

ゆ者ハ疵付不申ゆハ、本人より一等軽く可

申付事

喧嘩ニ而双方疵を得ゆ節双方之疵

相改疵之輕重ニ而罪を定ゆ事尤跡ル

手を下し理直き方ハ二等を減可申事

〔二二ウ〕

喧嘩口論ニ而人ホ

疵付不申ゆ共諸道具を

痛損之道具代為差出
戸メ十五日

痛ゆ者

〔二一〇〕

疵療治之事

疵を蒙りゆ者日限を立打擲致ゆ者より

〔二二オ〕

療治致さしむへき事日限之内死ゆ得者

打擲之者可為解死人事若日限之内ニ而も

疵平愈致ゆ断差出ゆ後餘病ホて死

ゆ得者只打擲之罪を加へ可申事

指卷本を折ゆ以上之疵日限之内療治ニ而

平愈致ゆ得者罪二等を減^レ過し日限満る

〔二二ウ〕

日さて平愈無之者ハ右之本刑を相用ゆ事

婦人之破産并病氣平愈ニ而茂痼疾ホニ

至りゆ得者罪減し申間鋪事

手足其外之物ニ而輕き打疵者廿日限

金創火毒ハ三十日限手足を折骨痛ミ

婦人之墮胎者五十日限

〔二三オ〕

争論ニ依而人を縛り

- 一 打擲し或於私家 鞭九

人を押籠ホ致ル者

但疵重く内損吐血以上ニ至リハ得者

打擲之刑より二等重く可申付事尤

自分手を下し不申ル共差圖致ル者

本罪より可致事差圖を受手を下しル者

一等軽く可申付事

〔二三ウ〕

〔一一一〕

主人下人を打擲致ル者并主人怪我ニ而

下人を殺ル者御仕置之事

軽き疵者不及御沙汰事

折傷以上之疵者平人打擲ル

四等軽く可申付事死一
至リハ得者鞭十八所拂

- 一 主人下人を打擲致ル者
- 一 同怪我ニ而殺ル者 不及御沙汰事 〔二四オ〕

〔一一二〕

妻妾夫を打擲致ル御仕置之事

鞭十五

- 一 妻妾夫を打擲致ル者 折傷以上之疵者平人より

三等を可加事片方潰シハ
以上ハ斬罪死一至リハ得者
磔

但妾者夫并妻を打擲致ル得者妻夫越

打擲致ル罪より一等重く可申付事骨を折

两眼を破リハ得者斬罪死ニ至リハ得者磔

- 一 夫妻を打擲致ル者

折傷以上ニあらされハ不及
御沙汰事右以上ハ平人之
打擲より二等軽く可申付事
死一至リハ得者死罪
〔二五ウ〕

但妾を打擲致折傷以上ニ至リハ得者

又二等軽く可申付事死一至リハ得者

鞭三十里追放

- 一 同怪我ニ而殺ル得者 不及御沙汰事

一 妻之妾を打擲致ル者夫之妻を打擲致ル

同様之事怪我ニ而殺ル得者其證據

於分明者不及御沙汰事 〔二五ウ〕

〔一一三〕

親屬之打擲御仕置之事

鞭廿七

- 一 伯叔父姑兄姉を打擲致ル者 七里追放

但疵付れ得者鞭三十里追放折傷者

徒壹年半鞭三十刃傷并手足を折目

片方を潰し以上ハ斬罪死ニ至り得者

獄門怪我ニ而殺し或者疵付れ者ハ宿意

を以殺し又者疵付れ者之刑ハ二等輕く

可申付事尤あゝなひハ難相成事

祖父母を打擲致れ者并

妻として夫之父母を

斬罪

打擲致れ者

但死ニ至り得者獄門怪我ニ而殺し得者

怪我ニ而父母を殺れと同様之事

弟妹甥姪を打擲ニ而

殺れ者

鞭三十
十里追放

但怪我ニ而殺し得者證據於分明者

不及御沙汰事

一 子孫を打擲ニ而殺れ者

鞭十五
繼母ハ一等重く可申付事

但子孫祖父母父母を罵り或ハ打れニより

依之子孫を打擲致し死ニ至り得者

不及御沙汰事怪我ニ而殺し得者是又

同様之事

〔一一四〕

師匠を打擲致れ者御仕置之事

〔二七ウ〕

一 師匠を打擲致れ者

平人より二等重く
可申付事

但死ニ至り得者獄門

〔一一五〕

父母人ハ被打擲其子孫返シ打致れ者

御仕置之事

一 祖父母父母人之為

輕き疵者不及御沙汰折傷

打擲せられ其子孫

以上ニ至り得者平人打擲より

救れぬ返打致れ者

三等輕く可申付事死ニ
至り得者可為下手人事

〔二八オ〕

〔一一六〕

支配を受け頭分を打擲致れ者御仕置

之事

一 支配を受け頭分を

平人之打擲より三等

打擲致れ者

重く可申付事

〔一一七〕

〔訴訟〕
祈詔御仕置之事

一 諸願申出れ者一通吟味之上難成願者

其趣申聞重而願出^レハ、咎可申付旨
〔二八ウ〕

急度申付其上願出^レハ、十五日戸^ノメ可
申付事

但支配頭江願出無取上儀ニ付戸^ノメ

申付^レ處違而箱訶并御役人江

訶詔ニ罷出^レハ、奉行ニ而遂吟味弥

於難立願者三十日戸^ノメ可申付事
〔二九オ〕

尤願可相立筋を支配頭ニ而取押置

或者支配頭非違之取扱有之訶出^レ類ハ

可為格別事

一 親子兄弟其外之親類ニ而茂御咎御免之

願者再應願出^レ共不及咎事
〔二九ウ〕

一 惣而願之儀筋違江申出^レハ、其筋之支配

頭江願出^レ様ニ申付^レ上再應申出^レ者其筋江

遂對談難立願ニ而無取上部者其筋之

支配頭ニ而相應之咎可申付事

但難立願奉行支配頭ニ而無取上旨

申渡^レ處同役江右之趣於申出者寺院ハ

押込町人百姓者戸^ノメ又者過料可申付事
〔三〇オ〕

一 親類縁者之由ニ而訶狀差出^レ節當人

難願出訳も無之^レハ、當人江為願可申旨

申渡取上申聞鋪事

難立願度^ニ箱訶い^レし

御咎被仰付^レ處又^レハ

右之儀訶狀入^レ者

無名之訶狀投文致^レ者

但訶狀之趣取上沙汰致聞鋪事

〔二一八〕 不實之事を訶^レ者御仕置之事

一 不實之事を申出人を

罪^ノ落さんと^レする者

若被訶^レ人御沙汰既ニ極^ニ其罪ニ被行

ハ之後不実之事願^レ得者罪ニ被行^レ者之

刑^ノ三等重^ク可申付事

但鞭三十徒元年半ニ而許可申事尤

被訶者死罪ニ被行^レ得者獄門

若ニケ条訶^レ節輕事者実ニ而重き事者

〔三一ウ〕

偽り或ハ一事ニ而茂輕き事を重ク申出ル者
鞭數之内実事之分を差引殘る鞭數を以
刑ニ行ル事

〔二一九〕

主人を訴ル者并親族相訴ル者御仕置
之事

主人并親之悪事訴出ル者 鞭三十里追放
訴之趣取上不申事

但上江懸リル重き儀者可為格別事 〔三三才〕

右同悪事有之旨偽申出ル者 斬罪

主人親非道之品有之難儀之由申ハ、
宥免之事願出ルハ、村役名主并親
類之者呼出宜取斗ル様可申付事

祖父母悪事有之旨

〔三三才〕

訴ル者并妻として 鞭廿七

夫又ハ夫之父母悪事 七里追放

有之旨訴出ル者

但被訴ル者ハ科人自身申出ルニ準シ

右箇条を以捌可申事若又上ニ拘リル

重き儀欤又者非道之儀有之不得

〔三三才〕

止事申出ルハ、この為格別事尤訴出ル
悪事偽ニルハ、平人不実之事を訴
出ル罪より三等重ク可申付事

伯叔父姑兄姉悪事

鞭十五

有之旨訴出ル者
但書前書同断

〔三三才〕

〔二二〇〕

父祖之教ニ背ル者御仕置之事

祖父母父母之教ニ違ヒ

鞭十五

或者養育を欠ル儀有之者

但祖父母父母之申出ニ寄刑を加ヘル事

〔二二一〕

〔訴訟〕
訴詔之腰推致ル者御仕置之事

〔三四才〕

訴詔之腰推致シ或者

本人同罪

人之為メ訴状を作り

尤徒老年半

人を罪メ落さんと致ル者

鞭三十迄ニ而訴
可申事

〔二二二〕

強訴御仕置之事

〔一二三〕

願難相立儀を大勢

頭取

徒黨いゝし支配頭之

鞭廿四五里追放

〔三四ウ〕

差圖を不相用強訴ニ

加擔人

鞭廿一三里追放

をいてハ

但加擔人之外一通之餘黨者吟味之上

呵又者御用捨之事

右同仕方ニハ共支配頭

本罪より二等輕く

非分有之ハ不付於強訴を 可申付事

〔三五オ〕

密通御仕置之事

一 密通不義之儀者何連も姦所ニをいて

見届慥なる證據有之夫或ハ親族より

申出ニ寄沙汰可致事外ハ訴ハ類者

御取上無之

一 密通御仕置妻妾都而無差別

但下人主人之妻与密通致ハ分者其

〔三五ウ〕

簡条ニ其捌有之事

一 密通いゝしハ妻并男

死罪

一 夫有之女江密通之

鞭廿七

手引いゝしハ者

七里追放

〔三六オ〕

女者引廻之上

磔

一 密通致實夫を殺ハ者

男相勸ハ欲又者手傳致ハ得者

獄門

但若シ男之手段而已ニ而女其謀を不知ト

いハ登^トも女ハ斬罪又女之手段斗ニ而

男其謀を不知時者男斬罪

一 同仕形ニ而實夫江疵付ハ者

男女共 獄門

〔三六ウ〕

但書前条同断

一 密通之男女共ニ夫切殺ハハ、無構

但其場を立去ハ後訴も無之我低ニ殺ハ者ハ

喧嘩ニ而人を殺ハと同様之事

一 密夫を殺妻存命ニハハ、妻

死罪

但若密夫逃去ハ、妻者夫之心次第可申付ハ

女同心無之ニ密通を申懸ケ

〔三七オ〕

— 或者家内江忍入ル男を夫
殺ル時不儀申懸ル證據於
分明者 男女共
無擄

本夫姦夫共

徒老年半 鞭三十

— 妻を許ル而密通致させル者

女者生涯縁談相構親元江
預置尤親元無之者ハ牢舎
老年半

〔三七ウ〕

— 主人之妻与密通致ル者

男引廻之上
獄門
女
死罪

— 但主人之妻与密通致ル者男女共死罪

— 主人之妻江密通之

徒老年

— 手引いしル者

鞭三十

〔三八オ〕

— 主人之娘与密通致ル者

男
鞭廿四五里追放
女
叱之上親元江相渡

— 同密通之手引致ル者

所拂

— 養母養娘并娘与致密通ル者

男女共
獄門

— 姉妹伯母姪与致密通ル者

男女共
乞食手江下ケル様

— 夫無之女与致不儀ル者

男女共
鞭九

— 縁談極ル娘与致不儀ル

見届ル段於無紛者
〔三八ウ〕

— 男并娘共ニ切殺ル親

無擄

— 縁談極ル娘与致不儀ル男

鞭十八
所拂

— 但女者髪を剃親元江相渡

— 夫有之女得心無之ニ

獄門

— 押而不儀いしル者

〔三九オ〕

— 但大勢ニ而不儀いしルハ、頭取獄門同類

— 鞭三十里追放

— 夫無之女得心無之

鞭三十

— 押而不儀いしル者

十里追放

— 幼女江致不儀怪我為致ル者

徒老年半
鞭三十

〔三九ウ〕

— 夫有之女江艶書者度々

男女共

— 取替ル得共密會不致義

五里追放

— 於無紛者

不及鞭刑

— 離別状を不遣後妻を

所拂

— 呼ル者

— 但利欲之筋を以之儀ニルハ、家財取上之上

町拂組拂

一 離別状を不取他江嫁ゆ女

髪を剃親元江返〔四〇オ〕

但右之取持いしゆ者過料壹貫五百文宛

一 離別状無之女他江縁付ゆ親元 過料三貫文

〔一二四〕

一 女犯之僧侶御仕置之事

一 密夫之僧

寺持所化僧之無差別
獄門

一 夫無之女与不義之僧

寺持之僧脱衣
十里追放大場御擗

一 同所化小僧之類

一日晒之上
本寺觸頭江相渡寺法

一 僧与密通不儀之女者平人交通之刑を以
之通可為致事

一 御仕置可申付事

一 尼密通之者ハ平人姦通之罪ニ一等を

加へ還俗為致ゆ事

〔四一オ〕

但男者平人交通之罪ニ行ゆ事

〔一二五〕

一 男女申合相果ゆ者御仕置之事

一 不義ニ而致相對死ゆ者

死骸取捨
為吊間鋪事〔四二ウ〕

但女相果男存命ゆハ、下手人男相果女

存命ニゆハ、不及下手人三日肆之上乞食手江〔四一ウ〕

相渡可申事

一 男女存命ニゆハ、

三日肆之上
乞食手江下ケル様

一 主人与下人相對死いし

乞食手江下ケル様

一 下人相果主人存命ニゆハ、

但下人存命ゆハ、死罪

〔四二オ〕

〔一二六〕

一 隠賣女御仕置之事

一 御免場之外隠賣女

鞭三

一 抱置渡世いしゆ者

一 同五野組合之者

過料三貫六百文

一 同名主

叱り

〔一二七〕

一 捨子之儀ニ付御仕置之事

〔四二ウ〕

一 金子を添子を貰其子を

引廻之上

捨ゆ者

獄門

但切殺メ殺ふをいてハ

引廻之上
磔

當人

所拂

五軒組合

捨子有之を内證ニ而
隣町〔等〕小江捨〔等〕の義於頭者
過料老貫八百文

名主
同三貫六百元

但吟味之上名主五軒組合不存義無紛〔四三才〕
をいてハ無構

〔一二八〕

博奕御仕置之事

過料

博奕打〔者〕者
三貫六百元

但其場之金錢ハ没収可致事尤其場ニ

居合之者之外同類有之共一々〔四三ウ〕食議〔者〕ハ

不及事
本人同罪

同宿致〔者〕者

過料

同五軒組合之者共
三貫六百元

同村役町役
村役過料町役戸メ〔者〕之義凡例有之

輕き賭之宝引〔者〕よみ〔者〕ある〔者〕、
戸メ三十日

打〔者〕者

同宿致〔者〕者
過料老貫五百文〔四四才〕

〔一二九〕

御用事を頼合致〔者〕者御仕置之事

御用事をまげて頼合致〔者〕者戸メ廿日

頼〔者〕者并頼を受〔者〕者同罪之事若事既〔者〕、

施し行〔者〕ひ得者頼を受〔者〕者鞭六頼〔者〕者其事

親類朋友之多めニ得者頼を受〔者〕者より

二等を減〔者〕逼し自分之為〔者〕ハ得者頼越

受〔者〕者より一等重〔者〕可申付事若

まげ〔者〕の事重〔者〕く得者依怙遺恨〔者〕ハを以〔者〕
〔四五才〕

人之罪を増減〔者〕い〔者〕し〔者〕し〔者〕簡条を以刑を加〔者〕ハ

可申事是〔者〕、為〔者〕賄賂を取〔者〕得者賄賂を

取不筋之捌扱致〔者〕ケ条を以刑を加〔者〕ハ

可申事

〔一三〇〕

失火御仕置之事

〔四五ウ〕

一 失火致ゆ者
戸メ廿日
類焼有之ゆ得者
同三十日

一 失火ニ而人を焼死致せゆ者 鞭十五

但一家之内誰ニ而も手あやまち致ゆ者江
刑を加へ可申事
〔四六オ〕

一 諸役所并御藏内ニをいて 鞭廿四

失火致ゆ箇手あやまち致ゆ者 五里追放

〔一三二〕 野火御仕置之事

一 山野江野火附ゆ者 住居之町在引廻之上 鞭十五

但本人不相知時者其領分之村所過料

為差出ゆ事過料之定那方別帳條例
有之事 〔四六ウ〕

一 同本人召捕又者訴人 御褒美 錢三十拾貫文
致ゆ者

〔一三三〕 御留場ニ而鳥殺生致ゆ者御仕置

之事

一 御留場ニ而鳥殺生致ゆ者 過料 老貫八百文
村役 戸メ五日
〔四七オ〕

〔一三三〕 於御停止場鉄炮打ゆ者御仕置之事

一 於御停止場鉄炮打ゆ者 鞭三

〔一三四〕 御觸ニ背ゆ者御仕置之事

一 御觸ニ背ゆ者 事輕きハ 戸メ十五日
重きハ 戸メ三十日

〔一三五〕 科人手向致ゆ者御仕置之事

一 科人逃去捕手之者江 本罪ノ二等重く可申付事
手向致ゆ者

但疵付ゆ得者平人打擲ニ而疵付ゆ箇条江

引合二等重く可申付事尤折傷以上ニ
至りゆハ、可為斬罪事

料 [一三六]

囚人出奔致せし者御仕置之事 [四八才]

窄破并預之内繩解き 本罪より二等重く可申付事

出奔致し者 日数三十日之内ニ捕は義

窄舎之者并町預 申付若捕兼は節者科

村預之者を不覚ニ而 人之罪ニ三等輕く可申付事

取逃し番人并宿 尤宿者又一等輕く可申付事

但態与逃し得者科人同罪 [四八ウ]

[一三七] 徒刑之者再犯御仕置之事

徒刑之者死罪以上之 死罪

悪事致しを以てハ 於其場

鞭三十

同徒刑を犯し者 徒之年限を増苦使為致し事

徒之年限を増苦使

但徒之年限相増し而戊戌年ニ不可過事 [四九才]

同右以下罪を犯しし者 御定之通刑を加へ本之

如く苦使為致し事

[一三八] 科人為立退并住居を隠し者御仕置

之事

一九二

上江對し重き謀計之者并

主殺親殺之者同類ニ無之共

其者ニ被頼乍存住所を 死罪 [四九ウ]

隠し或者立退し者又者

右躰之者致出奔御尋

之節乍存困置或者

召使ハ致不訴出者

但乍存請ニ立し者同罪尤吟味之上

不存ニ相決し共主人請人共過料三貫文 [五〇才]

火附 一 盜賊之上ニ而人を殺し者

追剥之類 一 致徒黨人家江押込は類

右之科人同類ニ者無之は共其者ニ被頼

住所を隠為立退し者早速窄舎申付

其親類之者江尋申付科人捕出はハ、

出窄之上徒老年半鞭三十二可行事 [五〇ウ]

但右之外科有之御食議之者を乍存

隠置或者其事を告知らせ逃し者

科人之罪より一等輕く可申付事

御搦有之者を御搦
戸メ三十日
町方之者者

之地江隠し置ハゆる者ハ

過料壹貫八百文
〔五一才〕

〔一三九〕

無宿者御片付之事
無宿者有之節可相渡

所縁有之者

引取人呼出可相渡

但親元親類無之ハ而茂町在九浦出生与

申儀ニ而惡事無之者ハ出生町

出生村江相渡可申事尤村方ニ而難

引取子細有之ハ分ハ乞食手下ケル様

〔五一才〕

他領出生無宿者

手寄之御関所江
送返可申付事

〔一四〇〕

御裁許不請者御仕置之事

御裁許不請者

鞭十八所拂

御裁許相濟ハ儀を

右同断

内證ニ而破ル者

〔五二才〕

〔一四一〕

不縁之妻を理不尽ニ奪取ル者御仕置
之事

御養子不孝不埒有之

當人

差戻ル以後外之養子致

徒老年半鞭三十

娘ニ嫁合ハ節先夫荷擔

荷擔人
所拂

人を催參り娘を於奪取者

〔五二才〕

〔一四二〕

變死之者を内證ニ而葬ル寺院
御仕置之事

變死之者を内證ニ而

五十日

葬ル寺院

禁足

〔一四三〕

御死并捨物手負病人ハ有之を
不訴出者御仕置之事

〔五三才〕

御死并捨物ハ有之を

當人并地主家主共
過料貳貫文

押隠シ於不訴出者

五軒組合
過料貳貫文

押隠シ於不訴出者

村役町役
過料貳貫文

但地主家主名主五軒組合於不存者

無構在方同断

變死并手負ひ者を

隠置不訴出其外

病人ハ隣町江送遣ニ

をいてハ

但書前条同断

〔五三ウ〕

前条同断

〔二四四〕

人之罪を輕重いゝしむ者御仕置
之事

一 依怙遺恨を以人之罪を輕重いゝしむ者

其増減致し處を以其分之罪を加へし事

若或者全隠し或者全偽り得者其本

罪を以刑を加へし事

〔二行 空白〕

〔五四オ〕

〔二四五〕

御仕置仕形之事

一 鋸引

一日引廻し兩之肩江刀目を入竹鋸

血を付側ニ立置二日肆挽可申与

〔五四ウ〕

申者有之時為挽し事

一 磔

取上御仕置場ニをいて磔可申付事

尤科書捨札建之三日之内乞食番ハ

附置

但科ニ寄引廻又者不及引廻

〔五五オ〕

一 獄門

取上御仕置場ニをいて獄門ニ懸而引廻

捨札番人右同断

〔五五ウ〕

一 火罪

引廻之上取上御仕置場ニをいて火罪

可申付捨札番人右同断

但物取ニ無之火附不及捨札火を付

居村居町引廻之上火罪可申付事

〔五六オ〕

一 斬罪

取上御仕置場ニをいて斬之

一 死罪

於窄前首を刎死骸取捨

附

下手人同断之事

〔下ケ札〕「肆場所之儀追而伺書を以可申上ル」
一 肆

一 徒刑

取上御仕置場ニをいて鞭刑三十鞭被行

銅鉛山江差遣年限之通告使為致ル事

尤年限之通告使相濟ル旨銅鉛山

懸り役ヲ申出ル處ニ而伺之上下山可申付事
〔五七オ〕

但其者ニ寄下山之節弘前徘徊并

居村居町大場ニ徘徊御構可被

仰付者ハ苦使相濟ル旨断申出ル節

右之趣懸り役ニ而申渡之上下山被

仰付ル義其度々相伺可申事

一 追放
三里ノ十里迄
〔五七ウ〕

十里追放之者御構之大場

九浦 飯詰 板屋野木

木造 淺虫 黒石

追加
金木 五所川原 但平井 喰川
拍原共

油川 浪岡 藤崎

〔下ケ札〕

「御構之場所前々御定之外當時

御構可被仰付場所之儀別段ニ伺書差上申上

ル通被仰付方之儀別段ニ伺書差上申上

但在九浦之者追放者勿論所拂之者共
〔五八オ〕

弘前御構可被仰付事

一 弘前拂 弘前惣町拂

一 所拂 在方者居村拂
町者居町拂

一 組拂 其老組御構

一 追院 住居寺江不罷婦
申渡ル所ニ直ニ拂遣
〔五八ウ〕

一 退院 住居之寺を可退旨申渡

一 一宗構 其老旨を構

一 一派構 其一派を構

一 鞭刑 同宗ニ而も外之派ニ成
ル得者無構

一 戸ノ 三鞭ノ三十鞭迄
〔五九オ〕

一 過料 五日ノ三十日迄

一 過料 六百文より

一 過料 四拾貳貫文迄

但盗杣之過料者伐木之高ニ應シ

過料可申付事

一 入墨

於窄屋

〔下ケ札〕「入墨仕形之義先日伺書差上置申付」

〔五九ウ〕

但入墨之跡噺ゆ而出窄

一 二重御仕置

鞭刑之上

所拂

同

追放

同

徒刑

役儀取上

過料

過料之上

戸メ

〔六〇オ〕

一 盲人御仕置

片輪者を以沙汰可致事

一 座當御仕置

座當頭江科之次第

一 乞食手下

乞食頭江相渡

一 乞食御仕置

乞食頭江相渡仕置

可致旨申渡

〔六〇ウ〕

弘前津輕藩では、安永律・寛政律につづいて文化年間に編纂された文化律を有する。この刑法典は、前二者にもまして幕府法の影響を明瞭にうけており、とくに御定書の体裁に学ぶこと大である。しかしながら、テキストにより、微妙な差異が見られ、順次その点に触れながら紹介していきたい。また寛政律に比べて後に作成されたものながら、その写本の類が比較的に少ないことにいぶかしさを覚えるものである。もともとこの類の法典が非公開を前提としていたものであり、後法が前法を完全に排除して用いられるものでなく、いわば並列的に用いられるものであるとすれば、文化律に比べて量の少ない寛政律と、当時普及していた御定書の写本さえ入手すれば、文化律が手元になくとも、とりあえずは間に合ったのかもしれない。

弘前大学付属図書館所蔵の『刑法』天・地・人三冊は、すでに本稿(七)で述べたように、同教育学部に昭和四〇年一月二七日付で受入れられた小野文庫中に見られる。

本書は、弘前藩文化律の一本であり、御家流で正書され、仮表紙を綴じ付けているが、他本と大きく異なる点は、いくつも見られる張紙や下ケ札の類を除いて、本文中には「御定書」「安永ノ御例」「寛政ノ御例」といった語句がまったく見られない

のを特色とする。これが単なる清書時の省略になるものなのか、完成形態の一形式を意味するものなのかは、今後の検討課題としたい。

『刑法』天（登録番号二八九三三）は、縦二三・三、横一七・四センチメートルで、おもて表紙は美濃紙二枚をかさねて綴じたもので、全体を右端の上下二カ所でこより綴じしており、うらから巻いた紙を糊貼りし、綴目をおおっている。第一丁から第四丁までは「御刑法定例目録」、第五丁から第一六丁までは「御刑法捌目録」とする。半丁六行、一行一八字を目安としている。第一七丁から本文が始まり、第四九丁で終わる。うら表紙も二枚重ねであるが、内側は反古紙である。

同前

御意の御文拜見申〇〇寒中何分ことのほか

ノ寒サ

上々様方 御

何分ニも御序の節よろしく

よ〇〇に

御前様より御意を

ミかん一箱頂戴

難有仕合ニ存

何分 御地の義

向方御側向る御伝言御座候ハ、

書加へ

御家内様へ御伝言にても御座候ハ、又

尤向方る御伝言無御座候共此御方る由伺

い書加へし可然 (以上、裏)

『刑法』地（登録番号二八九三四）は、縦二三・三、横一七・三センチメートルで、おもて表紙はこれまた美濃紙二枚をかさねて袋綴じしており、内側の紙には「碇ヶ関口御関所出御切手紙下書」の一行が記されている。あとの体裁は天と同様である。第一丁は「御刑法捌 隠田畑御仕置事」にはじまる。第一丁と第二丁の間に挿入紙があり「寛政之御例斟酌」云々とあり、第六丁裏一行目に下ヶ札「此ヶ条」云々とあり、第一二丁表五行目に下ヶ札「此但書」云々とあり、第一六丁六行目の下ヶ札には朱書で「此所」云々とある。第六二丁までである。うら表紙も二枚重ねで、内側は反古紙である。

料

うら表紙の内紙には、以下の文が読める。

一筆啓上任候向暑之節

御座候得共

屋形様益御機嫌能被遊

御座 奉恐悦候猶又私儀

去月八日御国許出立仕以

御威光道中十九日振ニ而同

廿六日到着仕難有仕合

奉存候右御礼各様迄申

上候御序之御宜被 仰上被成

下度奉願候恐惶謹言

手塚 春 亮

六月十六日 惟孝(花押)

中田喜左衛門様

木村 伊兵衛様

佐野 茂助 様

板野 周蔵 様

船水 彦八 様

この書簡を表紙に用いるため、もとの半折紙をひろげ、上端を少し切り落としている。

『刑法』人(登録番号二八九三五)は、縦二三・三、横一七・二センチメートルで、おもて表紙はこれまた美濃紙二枚をかさねて袋綴じしており、内側の反古紙は包み紙であつたらしく「切支丹御改證文 手塚春亮江戸詰ニ付 私代印

小野秀篤」

「①」

と記す。第一丁は九〇「宿意を以」云々に始まる。第五六丁と五七丁の間に挿入紙があり「肆場所之儀追而伺書を以可申上ゆ」と記す。第五八丁表四行目の下ケ札は「御構之場所」云々と記し、五九丁裏六行目の下ケ札は「入墨仕形之義先日伺書差上置申ゆ」と記す。第六〇丁でおわる。うら表紙は二枚重ねで内側は反古紙であることは変わらない。

うら表紙の内紙には、以下の文が読める。

一筆啓上任候私儀今般

存寄奥通被 仰付御近習者

番打込相勤候様被 仰付難有

仕合奉存候右御明聴為申上

御座候恐惶謹言

天保十五年

弘化元年

十月廿八

手塚春亮様

嶋元岱様

岡大淳様

崎清壽様

今意□様

山崎了泰様

伊崎三隆様

(以上、表)

□寒冬之節御座候へ共各様□御□

可□為□奉恐□随而私無事罷在候間

乍憚□意□可被下心得并不案内之

儀ニ御座候間自今宜御□心奉願候尚折角

時候御厭可被□余後便万々可申上候以上

(以上、裏)

元は半折紙であったのをひろげたので、今は上下逆に書いたように見えている。

以上の反古紙にみえる書簡から、この三冊が同時に編綴されたものであること、本書の完成が少なくとも弘化元(一八四

四)年十月廿八日以後であること、書簡にみえる人名、たとえば三カ所にみられる藩医手塚春亮惟孝が写本作成者になんらかの関わりを有するのではないか、などが指摘できる。

条番号を付したが、これは要記秘鑑所収の文化律とも共通する。文化律の版本としては、管見の限りで唯一知られているのは、中村元吉氏による謄写版刷の本のみである。⁽⁴⁰⁾これには目次に番号が付してあるが、その典拠は不明である。⁽⁴¹⁾本書の番号とは冒頭のところで相違する。本書では、「一」御刑法名目之事、「二」あかなひ定之事、とあるが、中村氏のテキストでは寛政律と同様に「一」戸メ五等、「二」敲三等、「三」敲の上追放五等、「四」敲の上徒罪三等、「五」死罪六等、「六」過料の事、となっている。本書では「一〇三」弓鉄砲ニ而人を殺候者御仕置之事、につづいて「一〇四」牛馬ニ而人を殺或は疵付候者御仕置之事、「一〇五」人を威し逼せて死を致さしむる者御仕置之事、「一〇六」辻切致候者御仕置之事、とあるが、中村本では「一〇七」弓鉄砲ニ而人を殺候者御仕置之事、につづいて「一〇八」辻切致候者御仕置之事、とあり、二項目が欠落しているが、これらは「一二七」「一二八」として後に入れられている。

以下に紹介する諸本について、この箇所の配列のみを比較し

料をみよう。なお(二)(三)(五)は仮に(一)の番号を当て、

(四)は付されている番号をそのまま用いた。

資

(一)	(二)	(三)	(四)	(五)	中村本
一〇三	一〇三	一〇三	五七	一〇三	一〇七
一〇四	×	一〇四	×	×	×
一〇五	×	一〇五	×	×	×
一〇六	一〇六	一〇六	五八	一〇六	一〇八
……	……	……	……	……	……
一〇四	一〇四	……	……	一〇四	一三七
一〇五	一〇五	……	……	一〇五	一三八

本書の「一二二」訴訟之腰推致候者御仕置之事、が中村本では本文はあるものの項目名を欠いている。したがって末尾では、本書は「一四五」御刑法仕方之事、とあり、中村本では「一四八」御仕置仕形の事、となっている。以後の諸本を見ていく上で留意しておきたい。

註

- (40) 中村本について、青森県立図書館『郷土資料目録 総記・哲学・歴史・社会科学篇』(昭和五六年二月末現在、昭和五八年三月二十五日発行)では、
 二〇三〇 津軽藩の刑法 A三三六一T

一二三頁 二五cm (写本)

註 津軽藩 寛永一寛政年間の改訂刑罰法と記し(一五二頁)、この『津軽藩の刑法』の扉見返しには、

青森県立図書館 五九六五〇

七九六五 中村殿寄贈

と記録している。

弘前市立図書館の目録では、

青森県刑法・警察史 中村元吉編 K三三二・五一七

昭和三三(贍写) 一冊 B五 洋

註：御刑法帳(文化律)を贍写出版したもの。

(41) 平成六年三月より公開された弘前図書館蔵八木橋文庫の『文化律』が中村本に近似している。